

石油系ドライ機

**DO100FL**

# 取扱説明書





## ★★★★★ はじめに ★★★★★

この度は、石油系ドライクリーナー(DO100FL)をお買い求めいただき、誠にありがとうございます御座いました。

洗濯回転、脱液回転が衣類に合わせて「5段階」に切り替えができ、さらに静電気モニター、ソープ自動投入機を標準装備し、独特の懸垂方式と最新式インバーターの搭載により、非常に安定した機能を持ったドライ機です。

尚、ご使用に当たっては、「取扱説明書」の始めに綴じてあります「注意書」をよくお読み戴き、記載事項を必ず守って下さい。

又この「取扱説明書」を最後までよく読んで、本機の機能を十分に理解し、より良きパートナーとして、長くご使用して戴けますようお願いいたします。

### メモ

ご購入年月日                      年              月              日

製造番号

ご購入代理店名

TEL (            )            —

### お願い

本機の製造番号は、本機のアフターサービス時に必要な番号です。

修理の依頼及び部品の注文の場合は、必ずお知らせ下さいますようお願いいたします。

# 目次

石油系ドライクリーニング機械を安全にご使用頂くための注意書	3
推奨ソープリスト表	11
<b>1 機械の主な仕様</b>	<b>13</b>
<b>2 据え付けに関する事項</b>	<b>13</b>
2-1 据え付け時のデータ	13
2-2 据え付け工事について	14
2-3 配管工事	16
2-4 電気工事	16
2-5 溶剤の取扱及び溶剤投入について	18
<b>3 機械の外観図</b>	<b>19</b>
3-1 D0100FL の外観図	19
<b>4 配管フローシート</b>	<b>20</b>
4-1 D0100FL 配管フローシート	20
<b>5 洗浄方式及び0秒設定の各行程の動き</b>	<b>21</b>
5-1 各洗浄方式の説明	21
5-2 タイマーを0秒にしたときの各行程の動き	22
<b>6 操作パネルの説明及び静電気センサーの説明</b>	<b>23</b>
6-1 操作パネルの説明	23
6-2 静電気センサーの説明	25
<b>7 運転の仕方</b>	<b>26</b>
7-1 行程の設定方法	26
7-2 行程の変更方法	26
7-3 その他の操作方法	26
7-4 隠しスイッチの操作方法	27
7-5 表示デジタルの見方	27
7-6 運転方法	29
<b>8 ベースタンクからドラムへの溶剤の移し方</b>	<b>30</b>
<b>9 外圧式カートリッジフィルターの取り扱い</b>	<b>31</b>
9-1 ベースタンクからドラムへの溶剤の移し方	31
9-2 カートリッジフィルターの仕様	31
9-3 交換時期の目安	31
9-4 エレメントの交換手順	31
<b>10 カーボンタンクの取り扱い</b>	<b>32</b>
10-1 ベースタンクからドラムへの溶剤の移し方	32
10-2 カーボンタンクの仕様	32
10-3 交換時期の目安	32
10-4 交換手順	32
<b>11 各機器の点検調整</b>	<b>33</b>
11-1 排液弁構造図	33
11-2 給液切替弁構造図	34
<b>12 各センサー部の点検調整</b>	<b>35</b>
12-1 静電気センサーの構造と点検	35
12-2 ソープ切れセンサーの構造と点検	36
13-3 振動検知スイッチの点検	36
<b>13 各機器の保守、点検、掃除</b>	<b>37</b>
13-1 機械の保守	37
13-2 機械の点検調整	37
13-3 機械の掃除	39
<b>14 インバーター及びオーバーロードについて</b>	<b>40</b>
14-1 インバーターについて	40
14-2 オーバーロードについて	40
<b>15 エラー表示内容</b>	<b>42</b>
<b>16 主な洗濯物の投入量</b>	<b>42</b>
<b>17 基礎参考図</b>	<b>43</b>
<b>18 クーラー接続要領図</b>	<b>44</b>
18-1 内蔵型仕様タイプのクーラー	44
18-2 チラー仕様タイプ	44
18-3 冷凍機仕様タイプ	46

## <付属書>

- 入出力端子番号表
- オートグリス取扱方法
- 洗濯事業に関連する労働安全衛生法・規則について
- 遠心機械の定期自主検査記録表
- 電気回路図

# 石油系ドライクリーニング機械を 安全にご使用戴くために

## 『注意書』

### お守り戴きたいこと

石油系ドライクリーニング機械は、引火性溶剤で洗浄を行う機械です。従って、『少量危険物』貯蔵取扱規制の対象設備機器に該当します。本機の設置、取扱に当たっては所定の届出手続きを行い、必ず所轄消防署の指導に従って下さい。

山本製作所

# ご使用の前に注意して戴きたいこと

石油系ドライクリーニング機械に使用する溶剤は引火性があり、その使用法を誤ると溶剤が静電気などにより引火し、火災など重大な事故に至る危険性があります。

このような事故を起こさないために、ご使用に当たっては必ずこの『注意書』をはじめ、『取扱説明書』注意書きのチラシやステッカー等をよく確認したうえ、取扱代理店の説明を受けて安全にご使用下さい。

取扱の不注意により起こった事故に関しては、当社としては一切責任を負いかねますので十分ご注意下さい。尚、ご面倒ですが代理店の説明を受けられた後、別紙の『試運転確認書』にご署名のうえ、当社までお送り戴きますようよろしくお願い申し上げます。

## 安全のため必ずお守り戴きたいこと

- ⌘ 設置、試運転の前に、必ず下記の安全上の注意事項をよくお読みいただき、正しく機械を設置し、正しくご使用いただきますようお願い致します。
- ⌘ 事業所の従業員全員の皆様にもご説明を徹底し、安全にご使用下さい。
- ⌘ ここに示した注意事項は  
石油系ドライクリーニング機械を安全にお使いいただき、“事業所内・外”の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。  
以下に記載した注意事項は誤った設置や、取扱により生じると想定される事故の“危険度”“損害の大きさ”“切迫の程度”等により『危険』『警告』『注意』の3段階に区分しています。  
いずれも安全に関する重要な内容ですので、熟読し必ずお守りください。

### 表示の内容

石油系ドライクリーニング機械に使用する溶剤(洗浄液)は引火性があります。

下記の表示には細心の注意を払い、設置・取扱をして下さい。

⚠ 危険	この表示を無視して誤った設置・取扱をすると、「人が死亡又は重傷を負う」危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠ 警告	この表示を無視して誤った設置・取扱をすると、「人が死亡又は重傷を負う」危険が生じる可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して誤った設置・取扱をすると、「人が損害を負う」あるいは「物質的損害」の発生が想定される内容を示しています。

## ⚠ 危険 表示の内容

この表示を無視して誤った設置・取扱をすると、「人が死亡又は重傷を負う」危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

### ⌘ 設備・作業場

#### ◇必ずアース（接地）工事をして下さい。

専門の工事業者に依頼し、D種接地工事（アース・接地抵抗100Ω以下）をして下さい。アース工事が不備の場合は、静電気や異常電流の逃げ場がなく、静電気により「引火爆発」を起こしたり、「感電」事故が発生する危険があります。又、万一落雷やショートなどによりノイズ電流が流れ、機械の誤動作や焼損が発生し、それが元で火災や爆発事故などにつながる恐れがあります。

#### ◇石油系ドライ機設置作業場周辺は火気厳禁です。

引火防止のため、作業場内及び排気口付近での次の行為は火種となるため絶対に禁止して下さい。引火により火災や爆発の恐れがあります。  
\* ボイラー・ストーブ・電熱器などの火気機器の設置及び持ち込み。  
\* 喫煙及びライター・マッチほか発火物の使用。  
\* 溶剤を入れた状態のまま、溶接や研磨作業等火花を発生させる工事。

### ⌘ 溶剤・洗剤

#### ◇ドライクリーニング用の石油系溶剤を必ず使用して下さい。

溶剤は、引火点40℃以上の石油系溶剤（JIS K2201-5）を必ずご使用下さい。規格品以外の溶剤を使用しますと引火や爆発の危険性が高くなります。JIS K2201-5（石油系溶剤）に該当しない溶剤はご使用できません。又、誤って燃料油、アルコール、シンナーなど異種の溶剤を混入した場合は溶剤を抜き取り、全て新しい溶剤に交換して下さい。

#### ◇溶剤（洗浄液）は必ず35℃以下で使用して下さい。

液温が35℃を越えると引火しやすくなり、火災や爆発の危険性が高くなります。液温が35℃を越えた場合は、機械の運転を一時中止し、液温が下がってから使用して下さい。

#### ◇ドライ洗剤（ドライソープ）を必ず所定の濃度で使用して下さい。

ドライ洗剤（ドライソープ）を使用しない運転（ノンソープ洗い・素洗いなど）を続けると、溶剤が絶縁された状態となるため静電気が帯電し、ドラム内での放電により火災や爆発が起こる危険性が高くなります。洗浄品質と安全を確保するために、ドライ洗剤を洗剤メーカー指定濃度投入して使用して下さい。又、溶剤中の洗剤濃度が低下しないように、ドライ洗剤を逐次追加投入して下さい。

◇ドライ洗剤(ドライソープ)は帯電防止効果の高いものを使用して下さい。

推奨品のドライ洗剤又は帯電防止効果のあるドライ洗剤を必ず使用し、洗剤メーカー指定のドライ洗剤チャージ量を守って下さい。  
洗剤メーカー指定濃度チャージ時における溶剤の体積低効率が $10^9 \Omega \cdot \text{cm}$ 以下にならない洗剤(帯電防止効果が乏しい)を使用しますと、静電気が帯電し易くなり、火災や爆発の危険性が高くなります。  
※推奨品のドライ洗剤リスト表は、注意書の末尾に添付していますので参照して下さい。

◇ドライ洗剤(ドライソープ)は引火点が $40^\circ\text{C}$ 以上のものを使用して下さい。

溶剤より低い引火点のドライ洗剤を使用すると、溶剤の引火点が下がって引火し易くなり、火災や爆発の危険性が高くなります。  
ドライ洗剤は引火点が $40^\circ\text{C}$ 以上のものを使用して下さい。

◇静電気モニターが『起りにくい』の状態で使用して下さい。

静電気モニターのランプが『起りやすい』又は『中央』に点灯している状態で使用すると、静電気により火災や爆発が起きる可能性が高くなります。  
必ずモニターのランプが『起りにくい』に点灯している状態で使用して下さい。  
『中央』のランプは『起りやすい』を表示する前に、ソープを加えて戴くために便宜上設けたものです。従って『中央』を表示したら、直ちにソープを加えて『起りにくい』を表示するようにして下さい。

◇静電気モニター内の溶剤の流れを確認してください。

毎日始業時に、静電気モニターに溶剤が流れているか確認してください。溶剤が流れなくなると、正確な測定が出来なくなり、最悪の場合引火・爆発する危険性があります。溶剤が流れていない場合は、ストレーナーの掃除又は、原因を究明し速やかに措置をしてから使用してください。

#### 警告 表示の内容

この表示を無視して誤った設置・取扱をすると、「人が死亡又は重傷を負う」危険が生じる可能性が想定される内容を示しています。

### ⌘ 設備・作業場

◇製品の改造禁止

メーカーの指示なく勝手に機械を改造したり、機能を変更したりしないで下さい。  
思わぬ事故を引き起こす原因となります。

◇常に換気を十分にして下さい。

ドライ機の作業室に排気装置(換気扇など)を設置し、溶剤ガスが滞留しないよう常に換気を十分にして下さい。(換気扇は溶剤ガスの比重の関係から下部に設置して下さい。)  
室内に溶剤ガスが充満すると、予期せぬ火花等で火災事故を招く恐れがあります。又、高濃度の溶剤ガスは人体に対しても有害です。



## ⌘ 洗濯物

◇ポケット掃除、金属類の点検を怠らず必ず行って下さい。

衣類をドラムに投入する前に、洗浄する品物の点検を行い、ポケット内のライター、マッチ、ヘアーピン、コイン等の異物及びバックル等の金属製付属品類は取り除いて下さい。高熱や火花を発生し溶剤に引火して、火災や爆発を起こす可能性があります。なお、取り外せない時はプラスチックなどのカバーをつけて下さい。

◇乾燥機で乾燥させた品物は絶対に洗浄しないで下さい。

乾燥させた品物(衣類の水分がなくなる)を洗浄すると、静電気が発生しやすくなり大変危険です。静電気により溶剤に引火し、火災や爆発を起こす可能性があります。

◇引火点40℃以上の助剤(前処理剤、シミ抜き剤等)を使用して下さい。

ベンジン、アルコール、ガソリン、シンナー、その他40℃未満の助剤で処理した品物を洗浄すると、溶剤に助剤が混入し引火点が下がり、予期せぬ火花等で火災や爆発を招く恐れがあります。洗浄前に低引火点の助剤で前処理、シミ抜きを行わないで下さい。

◇機械管理及び取り扱い

フィルタータンクの蓋(ふた)は溶剤漏れのないように開け締めして下さい。  
フィルタータンクの蓋を開ける時は、溶剤を十分に排液し、ネジを徐々に緩め、残液が漏れ出さないことを確認しながら蓋を開けて下さい。  
蓋を閉める前に、蓋内面及びパッキンのゴミ、異物を清掃して下さい。  
蓋のネジは均等に確実に締め、運転開始後液漏れがないことを確認して下さい。  
ネジの締め忘れ、パッキン面に異物の噛み込みがあると、運転時に溶剤が吹き出し危険です

◇活性炭、吸着剤(カートリッジフィルターなど)を交換するとドライ洗剤(ソープ)濃度が急激に低下します。

交換直後の新しい活性炭や清浄剤(吸着助剤)は多量のドライ洗剤(ソープ)を吸着し、通常の洗剤投入量では、しばらくするとドライ洗剤濃度がゼロの状態となり、静電気が帯電し易くなり危険です。それに見合うだけのドライ洗剤(ソープ)を追加して下さい。[ドライ洗剤(ソープ)の追加の目安は、吸着清浄剤20ℓで約8ℓのドライ洗剤を吸着します]

◇ポタントラップは度々掃除をして下さい。

ポタントラップ(ゴミカゴ)が目詰まりしますと、排液・脱液時に溶剤が溢れ出る危険性があります。ポタントラップ(ゴミカゴ)は、定期的に掃除をし、特に毛布等ゴミの出易い衣類を洗浄する時は、毎回掃除して下さい。  
又、ポタントラップの蓋を解放したまま運転すると、運転時に溶剤が飛び散り危険です。

◇溶剤を入れ過ぎた場合は保管容器に抜き取って下さい。

フィルター内の溶剤量を勘案し、タンクに規定量を超える溶剤を入れないで下さい。  
フィルター交換時など、全ての溶剤がベースタンクに集中するとあふれ出して危険です。

◇ドアは確実に締めてから運転して下さい。

洗濯物を投入した後、ドアは確実に締めてから運転して下さい。又、被洗物の袖などをドアに挟んだまま運転すると、溶剤が漏れだし危険です。

◇運転中はドラムのドアを絶対に開かないで下さい。

運転中はドアを開かないで下さい。溶剤が漏れだし危険です。

◇ドラムの停止を確認し、被洗物の出し入れを行って下さい。

被洗物の出し入れは、ドラム（内胴）が完全に停止してから行って下さい。ドラムが回転中に手などを入れると、巻き込まれて事故のもとになります。



## 注 意 表示の内容

この表示を無視して誤った取扱をすると、「人が損害を負う」あるいは「物質的損害」の発生が想定される内容を示しています。

### ⌘ 機械設備

◇据え付け場所。

不燃材で区画された専用の作業場で、換気や不慮の液漏れに対応する防液が確保できる所に据え付けて下さい。又、水や蒸気がかかる所、ボイラー室、直射日光の当たる所、その他近くで火を使用している所などへの設置もしないようにして下さい。なお、据え付け、設置に当たっては、所轄の消防署に届け出てその指導に従って下さい。

◇電源のブレーカー（遮断機）はインバーター対応型を設置して下さい。

ブレーカーはインバーター対応型（高周波不動作型漏電遮断機）を取り付けて下さい。普通タイプのブレーカーを使用しますと誤動作し、運転中に遮断することがあります。

◇電源の配線は容量の大きい電線を使用して下さい。

元電源からの配線は独立専用回線を設け、指定された規格以上の電線を使用して下さい。規格より細かい電線で接続すると、電線の発熱により火災になることがあります。

◇エアーベントの排出口の設置位置に注意して下さい。

エアーベントは近隣住民に迷惑（溶剤ガスの臭いや有害性など）のかからないよう高所に排気して下さい。又、エアーベントを低所に設ける場合は近寄れないようにし、いたずらや不用意な火気使用による事故が起こらないようにして下さい。

## ⌘ 機械管理及び取り扱い

### ◇機械の定期点検を実施して下さい。

溶剤漏れ、詰まり、異常音、発熱、金属腐食などの異常がないか、定期的に点検して下さい。必要があれば処置をしてから使用して下さい。事故を未然に防止します。

### ◇修理するときは元電源を遮断してから行って下さい。

機械の修理を行う場合は必ず元電源を切り、[修理中]の札を下げてから行って下さい。修理中に誤って電気を通じると感電したり、誤操作によりモーターやポンプが回転した場合非常に危険です。

### ◇パネル・カバー類を取り外した状態での運転を禁止します。

パネル、カバー類を取り外した状態で運転すると、「ベルトやプーリーに巻き込まれる」「溶剤が漏れた場合室内に飛散する」こと等により思わぬ重大事故につながる可能性があります。パネル、カバー類は必ず正規の位置にしっかり固定した状態で運転して下さい。

### ◇作業終了後は機械の電源及び元電源を切して下さい。

その日の作業終了後は、機械の電源及び元電源を切ってください。電源をいれたままにしておくと思わぬ事故につながる可能性があります。休憩時など、長時間にわたって運転しない場合も電源を切して下さい。

### ◇機械の上には物をおかないで下さい。

制御ボックス内の放熱が妨げられて故障や発火の原因となります。又、落下事故による怪我や故障の原因にもなり危険です。

### ◇輸送止め金具取り付け状態で使用しないで下さい。

輸送止め金具を付けたまま運転しますと機械が破損する恐れがあり大変危険です。

## ⌘ 異常対処

### ◇警報装置を解除し、危険な運転はしないで下さい。

故障や異常を知らせるブザー（警報装置）が作動した場合は、トラブルの原因を調べ、正常に回復させてから運転を再開して下さい。異常状態のまま運転を再開するとより危険な状態を招く恐れがあります。

### ◇緊急時には直ちに電源を切して下さい。

何か緊急に機械を止めなければならない時は、機械の停止ボタンを押し、元電源を切して下さい。なお万一火災や爆発が発生した場合は直ちに元電源を切して下さい。

## ⌘ 溶剤・洗浄品

◇腐食性の洗浄助剤は使用しないで下さい。

酸、アルカリ、その他腐食性の物質を含んだ洗浄助剤を使用すると機械が腐食し、ベースタンクに穴があき、溶剤が流出する危険性があります。  
又、エタン、パークなどの塩素系溶剤は腐食の原因となるほか、有害物質としての取り扱いが必要となりますので、前処理などに絶対に使用しないで下さい。

◇漏れたり、こぼれたりした溶剤は速やかにふき取り、密閉容器に保管して下さい。

溶剤漏れやこぼれを放置しますと、引火事故や作業員のスリップによる転倒事故を招きます。機械から液漏れがある場合は速やかに修理し、こぼれた溶剤をウエス等でふき取り、十分に換気して下さい。  
又、ウエスは廃棄物用密閉容器に保管して下さい。溶剤補給時にこぼれた場合も同様にして下さい。

◇取り出した洗浄品は速やかに乾燥機へ移して下さい。

ドライ機から取り出した洗浄品は、速やかに石油系用の乾燥機（スチーム式）へ移し乾燥して下さい。溶剤を含む洗浄品を長く作業室内に放置すると、溶剤ガスが漂い、予期せぬ火花により引火し火災事故を招く恐れがあります。又、溶剤ガスは人体に対しても有害です。

◇洗浄品を取り出す時は、皮膚障害や中毒等に注意して下さい。

石油系溶剤により皮膚障害（かぶれ、火傷）や、有機溶剤中毒になることがあります。洗浄品の取り出しなどの作業を行う場合は、ドライクリーニング作業用の保護手袋、エプロン、活性炭入りの簡易防毒マスクを装着して下さい。

◇洗浄品の入れ過ぎに注意して下さい。

定格以上の負荷量を洗わないで下さい。衣類事故につながります。

## ⌘ 廃棄物

◇使用済みカートリッジフィルター及び吸着清浄剤の廃棄。

石油系溶剤を含む使用済みフィルター、吸着剤、蒸留スラッジなどは特別産業廃棄物です。密閉容器に保管し、専門の廃棄物処理業者に依頼し適正に廃棄して下さい。

◇ドライ機の廃棄

ドライ機の廃棄時は、溶剤タンクやフィルタータンクの溶剤を完全に抜き取って下さい。溶剤が残ったままガス溶断などをされると非常に危険です。

## 平成 23 年 2 月現在の推奨ソープ

静電気の帯電量は、溶剤の体積抵抗率（電気を流す度合い）に密接な関係があり、体積抵抗率と静電気帯電量は、下表の関係があることが知られています。従いまして、当社は規定のソープ濃度投入時に、体積抵抗率が  $10^8 \Omega\text{-Cm}$  以下となるソープを推奨しています。現在体積抵抗率が  $10^8 \Omega\text{-Cm}$  以下になりましたソープは下記の通りです。

体積抵抗率 ( $\Omega\text{-Cm}$ )	$10^7$	$10^8$	$10^9$	$10^{10}$	$10^{11}$	$10^{12}$	$10^{13}$	$10^{14}$	$10^{15}$	$10^{16}$	$10^{17}$
	半導電性液体					絶縁性液体					
	危険な帯電を生じさせない物質			帯電する可能性のある物質	強く帯電する可能性のある物質					非常に強く帯電する物質	
静電気モニターランプ	起こりにくい			中央	起こりやすい						

クリーニング溶剤の新液は  $10^{13} \Omega\text{-Cm}$  以上の溶剤です

静電気モニターのランプと体積抵抗率の関係は、上表の関係となっていますので、機械の運転は必ず『起こりにくい』にランプが点灯している状態で行ってください。

『中央』のランプは、『起こりやすい』を表示する前に、ソープを加えて戴くために便宜上設けたものです。従って『中央』を表示したら、直ちにソープ又は帯電防止剤を加えて『起こりにくい』を表示するようにして御使用下さい。

### 推奨ソープ

メーカー名	品名	チャージ量
日華化学(株)	ハイアリンXOS ドライスター5 ドライスターDX-5 エスペロTC ドライスターNS-8 ドライスターWパワーS	1.0%以上(メカ指定1.0%) 0.8%以上(メカ指定1.0%) 1.0%以上(メカ指定1.0%) 0.8%以上(メカ指定1.0%) 0.3%以上(メカ指定0.2~0.4%) 0.5%以上(メカ指定0.5~1.0%)
ゲンブ(株)	ゲンブクリーンK2 ゲンブSX パワーソープSK ゲンブクリーンWA ゲンブクリーンWK ゲンブハーブドライS ニュースムースドライS ゲンブクリーンNFコンク	0.5%以上(メカ指定0.5%) 0.8%以上(メカ指定0.5~1.0%) 0.6%以上(メカ指定1.0%) 0.5%以上(メカ指定0.5%) 0.5%以上(メカ指定0.5%) 1.0%以上(メカ指定0.5~1.0%) 0.8%以上(メカ指定0.5%) 0.6%以上(メカ指定0.3~0.6%)
アルベス(株)	DN-300 エースサニタル トータルファッションS サンドレックスDN400 サンドレックスDNサニタル	1.0%以上(メカ指定1.0%) 1.0%以上(メカ指定1.0%) 0.9%以上(メカ指定1.0%) 0.7%以上(メカ指定1.0%) 0.8%以上(メカ指定1.0%)
(株) ツーエム化成	のびたくん トンネルゾール 美イング CSソープ EM配合ソープ 善玉バイオソープ	0.6%以上(メカ指定0.5~0.8%) 0.7%以上(メカ指定0.7~1.0%) 0.5%以上(メカ指定1.0%) 1.0%以上(メカ指定1.0%) 0.8%以上(メカ指定0.7~1.0%) 0.6%以上(メカ指定0.5~1.0%)
共栄社化学(株)	ライトゾールエース 花子N ライトゾールフィット	0.8%以上(メカ指定1.0%) 1.0%以上(メカ指定1.0%) 0.5%以上(メカ指定0.5%)
ヘンケル白水(株)	ラナドールOSD パワーソープ	0.6%以上(メカ指定1.0%) 0.4%以上(メカ指定0.4~0.6%)

エイエムジー (株)	ドライEX(2次液併用の事) シリコンソープ ドライEXホワイト	0.4%以上(メカ指定1.0%) 0.9%以上(メカ指定1.0%) 0.7%以上(メカ指定1.0%)
渋谷油脂 (株)	ネオベンゼースーパーデラックス ネオベンゼーWS-DX	0.7%以上(メカ指定1.0%) 0.6%以上(メカ指定0.4~0.6%)
花王(株)	ネオ オリジンMH	0.8%以上(メカ指定1.0%)
ライオン(株)	リパールNS	0.7%以上(メカ指定0.7~1.0%)
日本油脂 (株)	ソルノンエース NSソルノン	1.0%以上(メカ指定1.0%) 0.6%以上(メカ指定0.6%)
(株) コスモペトロテック	ペトロドライSFT ペトロドライSP	1.1%以上(メカ指定1.0~1.2%) 0.5%以上(メカ指定0.5%)
(株) エヌ・イー	NEロイヤルソープ	0.8%以上(メカ指定0.8%)
国際科学工業 (株)	ゾル・ソフト セミタイプ ハイ・ソルベントソープK-10 ハイ・ソルベントソープK-20 ハイ・ソルベントソープK-30 ノーブラシDXソープ(ターペン用) まゆ洗いソープ ダイヤソフト リンス・ゾル エコノミーソープ(ターペン)DX123 ドライー発 オールドライ ドライばっちり	1.5%以上(メカ指定1.5%) 1.2%以上(メカ指定1.2%) 1.4%以上(メカ指定1.4%) 0.8%以上(メカ指定0.8%) 1.0%以上(メカ指定1.0%) 0.8%以上(メカ指定0.8%) 1.2%以上(メカ指定1.2%) 1.2%以上(メカ指定1.2%) 0.7%以上(メカ指定1.0%) 0.8%以上(メカ指定1.1%) 0.7%以上(メカ指定0.8%)
(有) ニッコー技研	アールン21C	0.5%以上(メカ指定0.5%)
ラクナ油脂 (株)	エグゼソープ生 エグゼソープ命 テンMC	0.6%以上(メカ指定0.5~1.0%) 0.5%以上(メカ指定0.5~1.0%) 0.5%以上(メカ指定1.0%)

## 1 機械の主な仕様

機 種	DO100FL(外圧式)	
処理能力	処理量(JIMS)	10kg (8.2kg)
使用溶剤	石油系クリーニング溶剤	JIS K2201-5
機械最大寸法 (取外可能最小寸法)	間口×奥行×高さ	954X1223X1630 mm (954X1040X1630)
懸架方式	スプリング支え式	
ドラム寸法	直径×奥行	660φ X460L mm
ドラム回転数	洗浄回転	30.40 RPM.
	脱液回転	465.930 RPM.
ソープ投入	自動投入方式	投入量の設定可能
	投入量	0~990cc 迄 10cc 単位で設定可能
電 源	電動機	AC 200V 三相 (20A)
	制御回路	AC 100V 单相 (5A)
電 動 機	洗浄、バランス、脱液	2.2kw 4P
	ポンプ	0.4kw 2P
フィルター	カートリッジ方式	196φ X365LX2 本 外圧式エレメント
カーボンタンク	粒状カーボン	20L
溶剤循環ポンプ	カスケードポンプ(32A)	
溶剤容量	ベースタンク	180L
	ドラム	55L
	フィルター	25L
	カーボンタンク	31L

## 2 据付に関する事項

### 2-1 据付時のデータ

外圧フィルター兼用

機 種	DO100FL	
機械最大寸法 (取外可能最小寸法)	間口×奥行×高さ	954X1223X1630 mm (954X1040X1630)
機械ベース寸法	間口×奥行	950X1040 mm
点検スペース	機械後面	500 以上 mm
	機械左右側面	300 以上 mm
	機械上面	1000 以上 mm
電 源	電動機	AC 200V 三層 (20A)
	制御回路	AC 100V 单相 (5A)
	全定格	2.6 kw
電 力	1回当たり使用量	約 0.9(1行程19分) kw/回
初回の溶剤投入量	180 L	

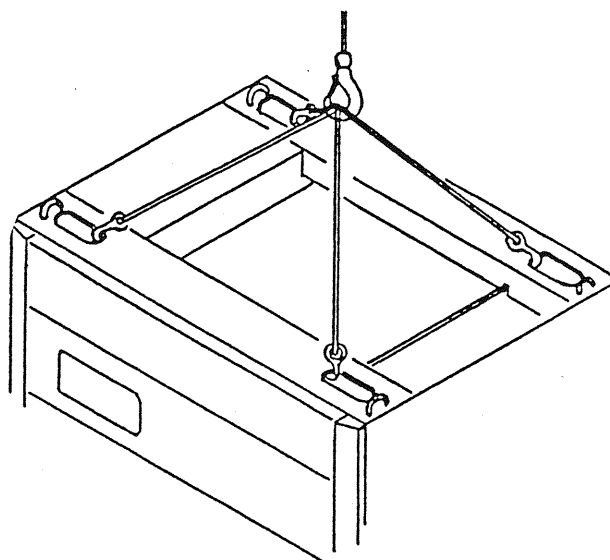
## 2-2 据付工事について

### 1) 届出手続き

本機は少量危険物貯蔵取扱規制対象外の商品ですが、機械を設置する際、設置場所の選定、並びに周辺の防火措置については、所轄消防署の指示に従って下さい。

### 2) 運搬、搬入

- a 機械の運搬、搬入に際しては、機械の輸送止め金具を取り付けた状態で行って下さい。
- b 機械の運搬、搬入に際しては、極度の衝撃を与えたり、機械の外装部に損傷を与えないように取り扱って下さい。
- c 降雨の場合の機械の運搬、搬入に際しては、必ず本体にビニールシート類をかけて、雨水が多少なりとも機械内（特に制御ボックスの中）に入らないように注意して下さい。
- d クレーン等で機械をつり上げる場合は本体上部四隅の吊り上げボルトにフックを掛けて吊り上げて下さい。



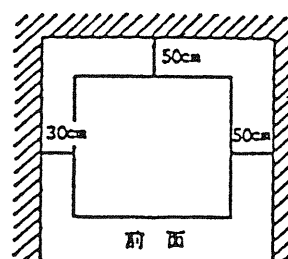
### 3) 据え付け所要スペース

本機の保守点検を容易に行うため、機械周囲のスペースを右図の寸法以上とって下さい。

機械上部のスペースは、機械最上部より1m以上空け、機械上部には物を置かないで下さい。

注) 本機は石油溶剤を使用するため、火気使用付近には絶対に据え付けしないで下さい。

又、直射日光の当たる場所など、液温の上昇する場所も出来るだけ避けて据え付けるようにして下さい。





#### 4) 基礎工事

- a 本機の据付は、機械自重による床荷重（下記）に充分耐えられる所で、かつ水平な所であれば特別な基礎工事の必要はなく、簡易基礎にて水平を出し、4本のアンカーボルトで固定するだけで充分ですが、特に地盤の弱いところは「17項基礎参考図」の基礎図を参照の上基礎工事を行って下さい。

床荷重... D0100FL・・・1500kg / m<sup>2</sup>

- b 基礎台の周囲を50cm程度高くすると共に、一隅に油溜まりを設け、万が一溶剤が零れた場合でも、この油溜まりに溶剤が集まり、周囲への流出を防ぐと共に、この油溜まりから溶剤を汲み出せるようにして下さい。

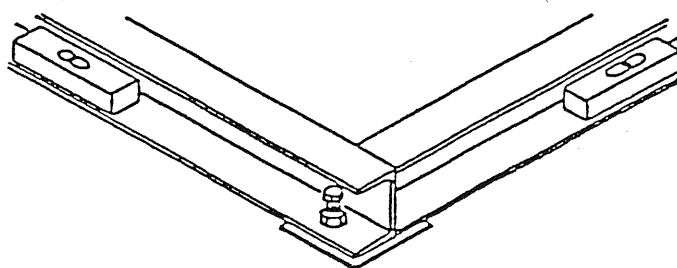
#### 5) 据付

- a 機械据付箇所の設置面を水平にし、ベットチャンネルに取り付けてある前後4カ所のボルト（M12）の下に、付属の鉄板製ライナーをセットし、機械のガタツキをなくして下さい。

- b 水平の確保、及びガタツキがなくなりましたら、4本のM12ボルトでライナーを少し押して下さい。  
この4カ所の部分に少しでもガタツキがありますと、脱液回転時に機械が振動し、故障の原因となりますので注意して下さい。

注) 設置床面にゴムシートなどの弾性体を敷かないようにして下さい。逆に振動が増加します。

必ず図に示す位置に水準器を当て  
水平を出して下さい

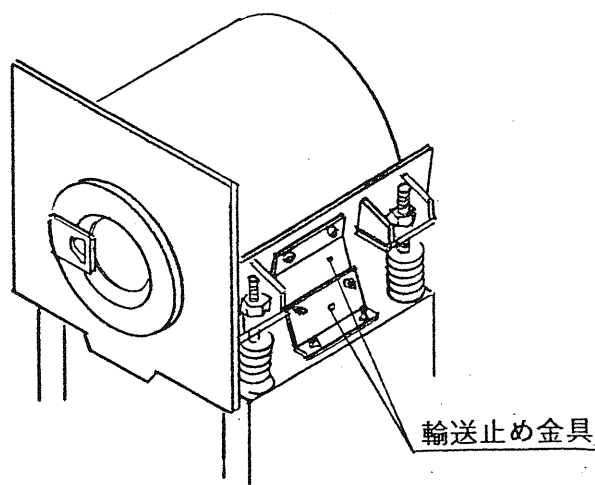


#### 6) 固定金具の取り外し

据付が終わりましたら、必ずケーシングを固定している8カ所の、固定金具を取り外して下さい。

固定金具を取り付けたままで運転したりすると、機械が故障する原因となります。

又、移動したりする場合は、固定金具を必ず取り付けて行って下さい。



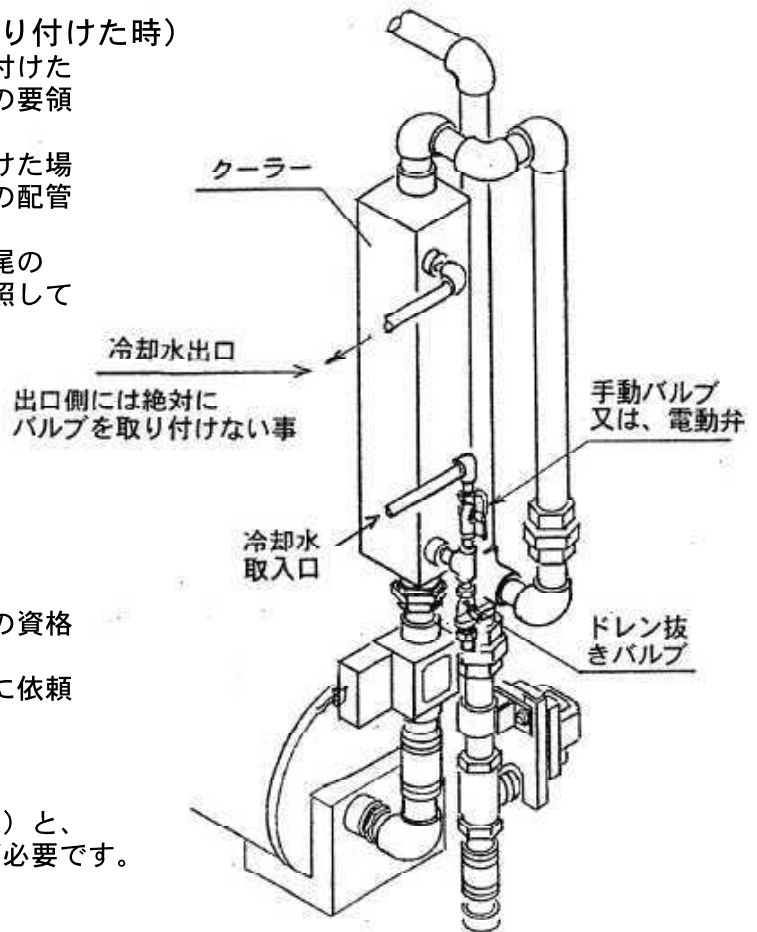
## 2-3 配管工事

(オプションでクーラーを取り付けた時)

オプションにてクーラーを取り付けた場合は、冷却水配管工事を右図の要領で行って下さい。

又別置き型のクーラーを取り付けた場合は、冷却水配管工事と、溶剤の配管工事が必要です。

工事要領は、この取扱説明書末尾の「クーラー接続要領」の項を参照して下さい。



## 2-4 電気工事

電気工事を行う場合、電気工事の資格が必要です。

従って、電気工事は専門の業者に依頼して下さい。

### 1) 電源

電源は、3相200V(駆動用電源)と、単相100V(制御回路用電源)が必要です。

### 2) 電気配線

- a 電気配線には、3.5mm<sup>2</sup>(5mを越えた場合は5.5mm<sup>2</sup>)以上のキャプタイヤ線を使用し、漏電遮断器は「高調波対応型漏電遮断器」(ELCB)(20A定格感度電流30mA以上のもの)を使用して下さい。

推奨品  
富士電機... EW50EAG  
三菱電機... NV63-CV  
東芝..... LES50G

- b 漏電遮断器(ELCB)と本機との接続は、本体後部より電源接続線として、ゴムキャプタイヤケーブル3.5mm<sup>2</sup>×4芯)を、2.5m程度出してありますので、この線を利用して下さい。

- c 100V電源は、制御回路に使用されますので10A程度のものがが必要です。家庭用の既設のコンセント又は、コンセント回路から器具を用いて接続して下さい。

100V制御回路電源には、VCケーブル1.25mm<sup>2</sup>×2芯をリード線として2.5m程度出してありますので、この線を利用して下さい。

注1) 力率改善進相コンデンサは絶対に取り付けしないで下さい。

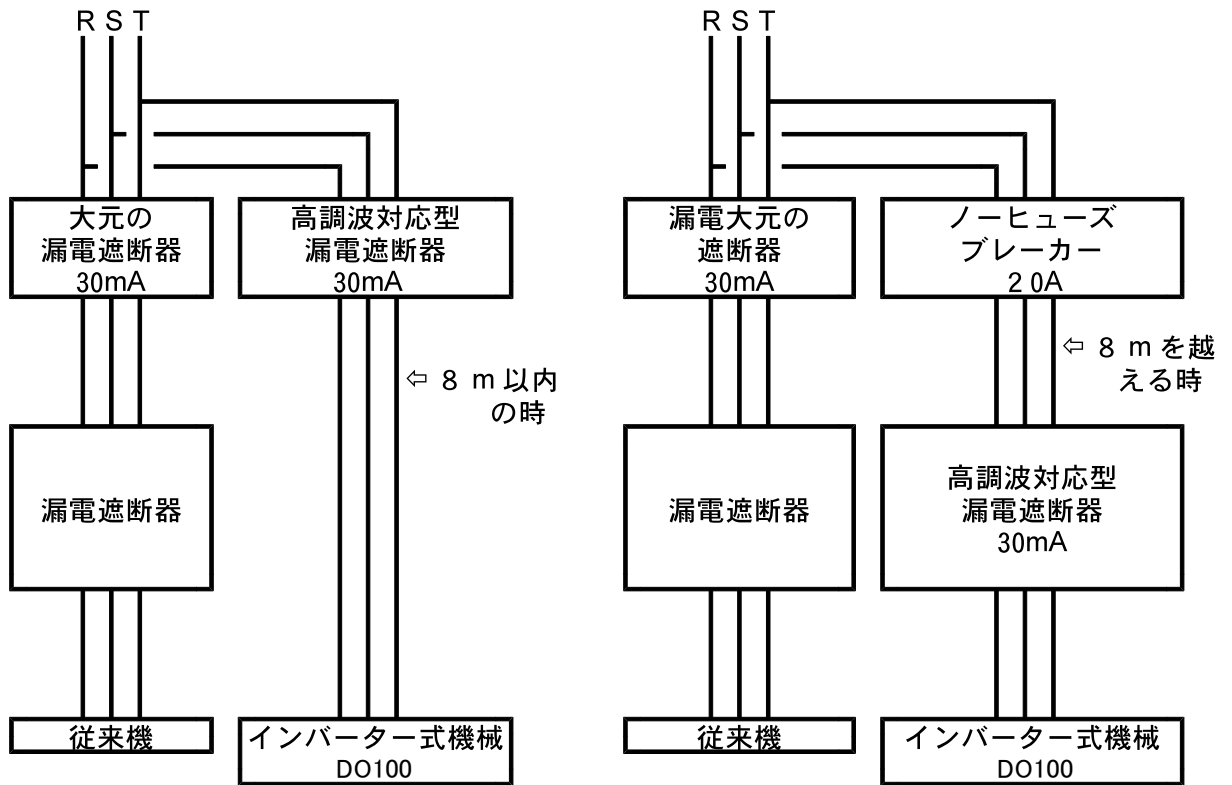
注2) 漏電遮断器は、必ず高調波対応型を使用して下さい。普通の漏電遮断器を使用しますと、高周波の漏れ電流により誤動作する場合があります。

注3) 本機を運転中、大元電源の漏電遮断器が動作する場合は、大元の漏電遮断器を高調波対応型に取り替えるか、本機専用に電源工事を行って下さい。

注4) 100V回路の漏電遮断器が動作する場合も高調波対応型に取り替えて下さい。

注5) 高調波対応型に取り替えても漏電遮断器が動作する場合は定格感度電流を100mAのものに取り替えて下さい。

結線図（本機専用に電源工事を行う場合は、下記の要領で行って下さい。）



### 3) アース工事

キャプタイヤケーブルの4芯の内“緑色”の線は、機械本体に接地してありますので、“緑色”の線を本機単独のD種設置工事（アース）を行って下さい。  
アース棒は、機械に付属されているものを使用して下さい。  
D種接地工事..... 対象機機AC300V以下、接地抵抗100Ω以下、接地線の太さ1.6φ以上

### 4) 回転方向の確認

本機はインバーター駆動方式ですので、ドラムは電源の相に関係なく右回転から始まります。従って、回転方向の確認は、溶剤循環ポンプの回転方向（矢印）で確認して下さい。回転方向が違う場合は、必ず電源側にアース線（緑色の線）を除く線の内、2線を入れ替えて下さい。本機の制御盤内での配線の入替は絶対にしないで下さい。

### 5) メガテストについて

絶縁抵抗試験（メガテスト）は、行わないで下さい。マイコン、インバーターが破損します。

### 6) 落雷について

落雷の恐れがある時は、3相200Vの機械元電源（漏電遮断器の元電源）を切って下さい。マイコン、インバーターが破損する事があります。

## 2-5 溶剤の取扱 及び 溶剤投入について

### 1) 取扱に関する注意事項

本機は少量危険物取扱規制外の商品ですが、その取扱に当たっては、必ず所轄消防署の指示に従って下さい。

本機に使用する溶剤は引火性があります。その使用方法を誤りますと、火災や爆発のを招く恐れがあります。よって本取扱説明書の、始めに綴じてある「注意書」に記載されている事項を、よく守って取扱をして下さい。

所轄消防署の指示に従わなかったり、誤った使用法などにより生じた事故の時は、メーカーとしての責任は負いません。

### 2) 溶剤投入

機械に溶剤投入をする場合は、下記の事項を確認の上、次の要領で投入して下さい。入れすぎると、溶剤タンクよりこぼれますので注意して下さい。

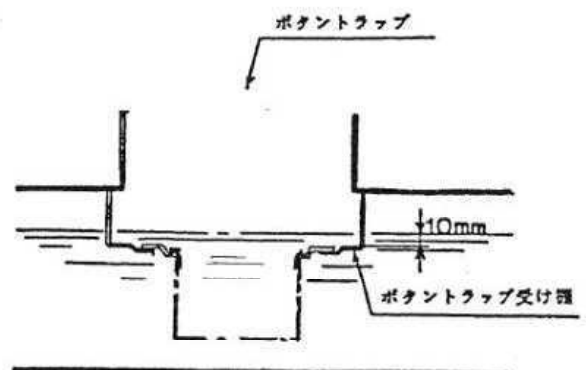
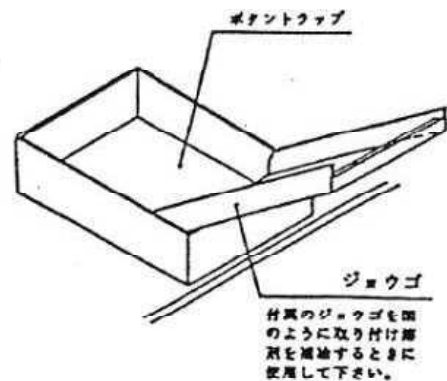
#### 確認事項

- 1) カートリッジフィルターのエレメントの装着確認、及びフタのナットの締め付け確認
- 2) カーボンタンクのカーボンの装着確認、及びフタのナットの締め付け確認

- a 機械下部の扉を開き、ベースタンクのポタントラップフタを取り、この口よりベースタンクに溶剤（150ℓ）を投入します。
- b ポンプの給液栓を開けて、ポンプの中に溶剤を一杯入れます。溶剤を補給した後、給液栓は必ず締めて下さい。締めないでポンプを回すと、溶剤が溢れ出ますので、注意して下さい。  
ポンプ内に呼び液を入れるのは、初回のみでその後は必要ありません。
- c 3相200Vと、単相100Vの元電源を入れて下さい。
- d 操作パネルの「電源」を[ON]、[ポンプ]を[ON]し、溶剤をカートリッジケース、カーボンタンクに充填します。充填完了は、サイトグラスに溶剤が通過すると完了です。この時ポンプの回転方向を確認して下さい。ポンプの回転方向は、ポンプに表示されています。2～3分経過しても、溶剤が通過しない場合は、再度ポンプに溶剤を追加して下さい。

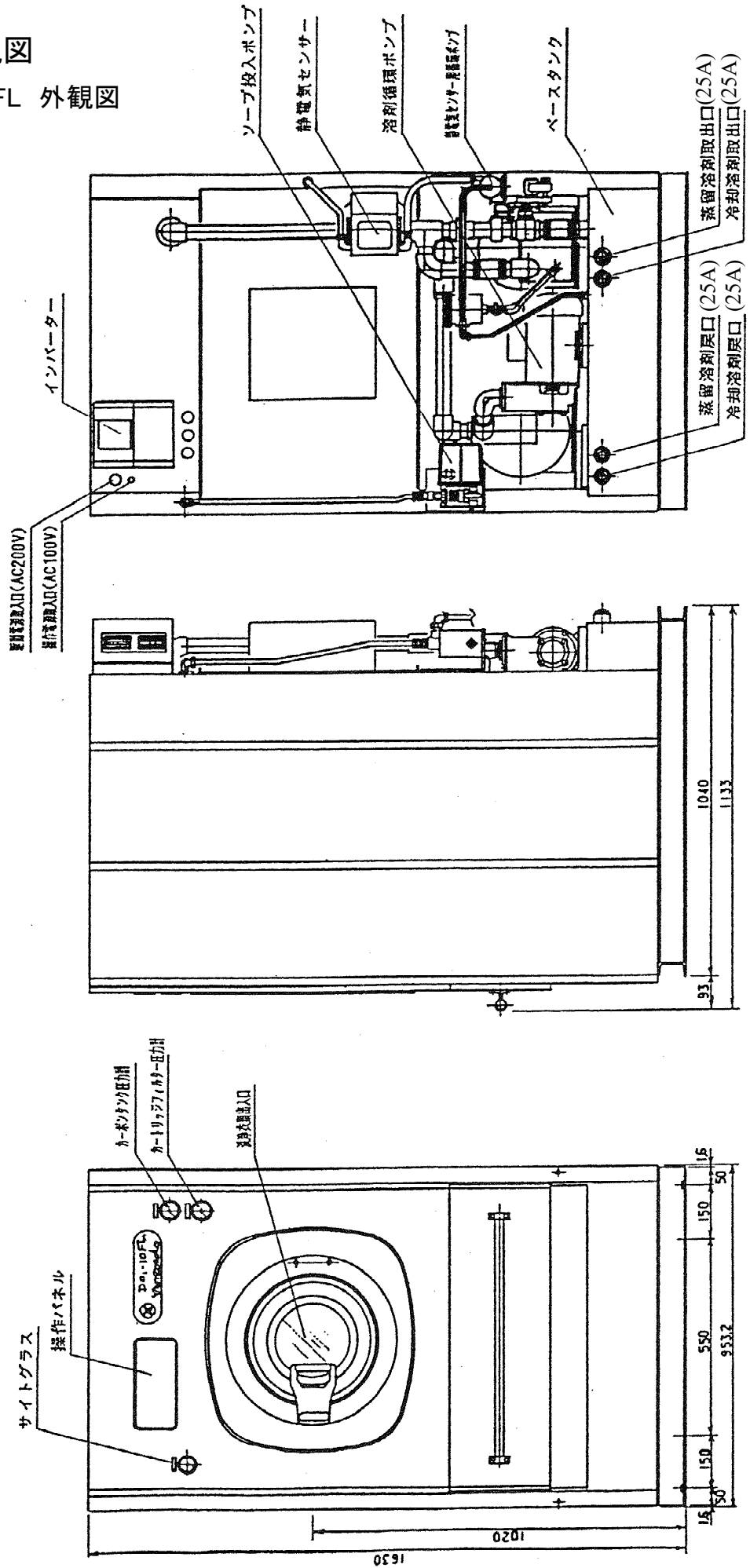
[注意] ポンプ内に呼び液が入っていないと、メカニカルシールが焼損しますので注意して下さい。

- e サイトグラスに溶剤が通過後、1分程してポンプを[OFF]にします。
- f 右図のポタントラップ受け棚より10mm上まで溶剤を補給します。これ以上溶剤を入れようと、停止中に溶剤クーラーより溶剤が落ちてきて、溶剤がタンクよりこぼれますので、絶対に入れないで下さい。  
溶剤の補給は、使用者に注意するように指導して下さい。  
以上でベースタンクへの液入れは終了です。



### 3 機械の外観図

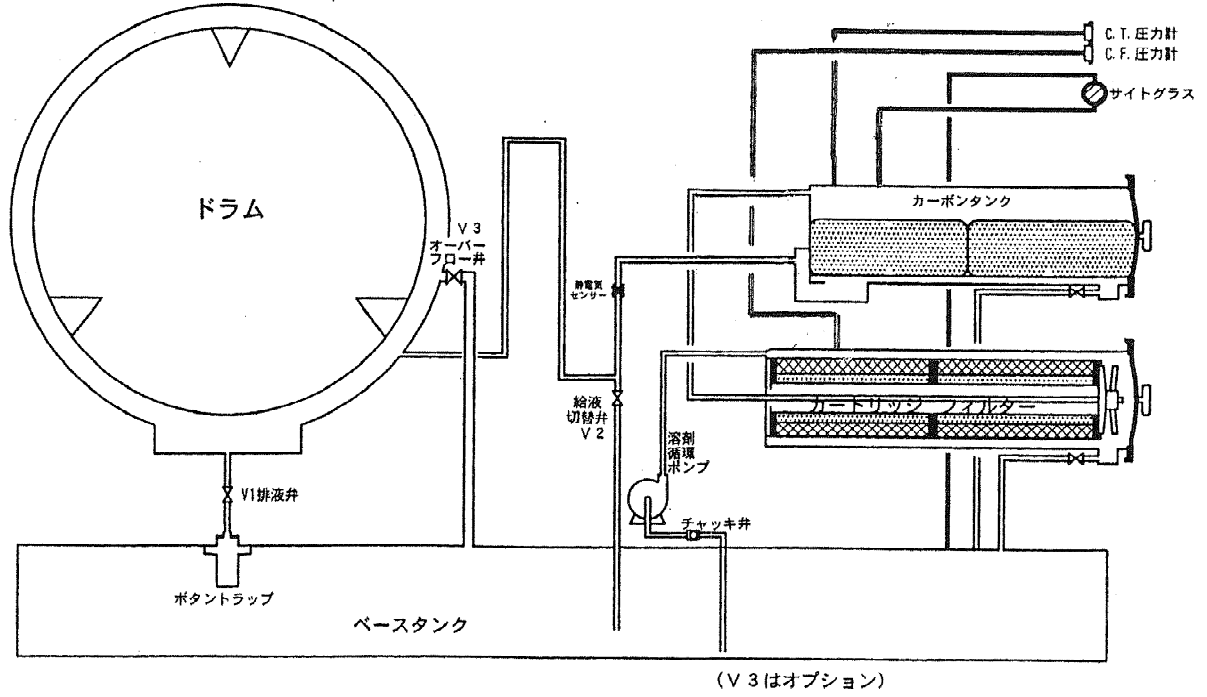
3-1 DO100FL 外観図



## 4 配管フローシート

### 4-1 DO100FL 配管フローシート

#### 外圧フィルタタイプ

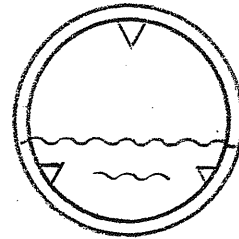


## 5 洗浄方式及び0秒設定時の各行程の動き

### 5-1 各洗浄方式の説明

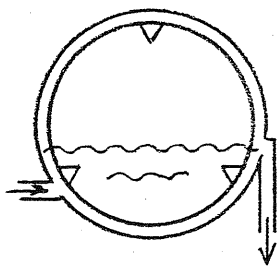
#### 1) バッチ洗浄

ベースタンクよりフィルター経由で、液をドラム内に入れ、規定の時間に達すると給液が止まり、溜洗いをします。汚れがひどい場合に、ドラム内のソープ濃度を増やして、洗浄する場合に使用します。洗浄時間は2～3分とします。給液時間（70秒）



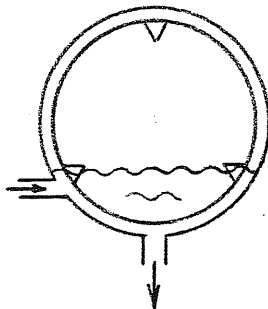
#### 2) アップダウン洗浄

ベースタンクより溶剤を、フィルター経由でドラム内に入れ、オーバーフロー洗浄を行った後給液状態のまま排水弁を開き、ドラム内の汚れた液を排出しながら洗浄を行います。[オーバーフロー洗浄] → [給排水洗浄] → [オーバーフロー洗浄] → [給排水洗浄]を設定時間内繰り返して洗う洗い方です。ドラム内の汚れた溶剤がすぐに排出されますので、二時汚染の少ない洗い方です。洗浄時間は3～4分とします。



オーバーフロー洗浄  
(排水弁閉)

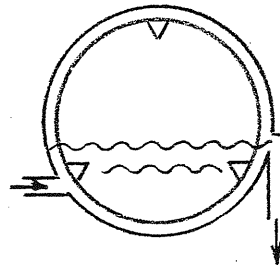
60秒



給排水洗浄  
(排水弁開)

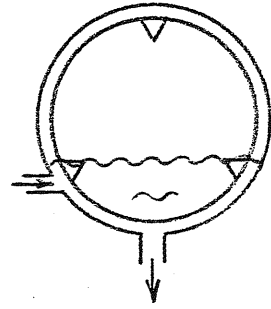
給液を継続したまま排水弁が開きドラム内の汚れた液を排出しながら洗浄を行う

30秒



オーバーフロー洗浄  
(排水弁閉)

60秒



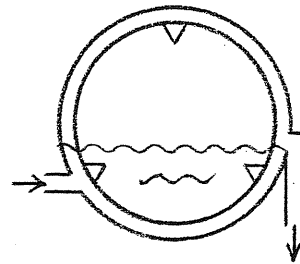
給排水洗浄  
(排水弁開)

給液を継続したまま排水弁が開きドラム内の汚れた液を排出しながら洗浄を行う

30秒

#### 3) オーバーフロー洗浄

ベースタンクより溶剤を、フィルター経由でドラム内に入れ、定液位に達するとオーバーフローさせ、ベースタンクに溶剤を戻しながら洗浄します。一般的な洗い方で、洗浄時間は10～15分とします。



洗浄方式は前記の3通りとなりますが、洗浄回転数の組み合わせによって、下記の洗浄方式が選べます。

#### 1) 強洗浄 (ランプ L 3点灯時)

ドラムが40rpmで正逆転しながら洗浄を行う洗い方です。バッチ、アップダウン、オーバーフロー共に40rpm回転となります。  
標準の洗浄方式です。

#### 2) 弱洗浄 (ランプ L 4点灯時)

ドラムが30rpmで正逆転しながら洗浄を行う洗い方です。バッチ、アップダウン、オーバーフロー共に30rpm回転となります。  
きつい洗いを必要としない時に使用します。

#### 3) 強・浸し洗浄

ドラム回転数は40rpmで洗浄を行います。  
通常のドラムの回転時間は、8秒正転、4秒停止、8秒逆転、4秒停止の繰り返しで洗浄されていますが、この洗浄モードにしますと、ドラムの洗浄回転時間が4秒正転、8秒停止、4秒逆転、8秒停止の繰り返しで洗浄するようになります。  
弱洗浄よりも弱い洗いを必要とする時に使用します。

#### 4) 弱・浸し洗浄

ドラム回転数は30rpmで洗浄を行います。  
通常のドラムの回転時間は、8秒正転、4秒停止、8秒逆転、4秒停止の繰り返しで洗浄されていますが、この洗浄モードにしますと、ドラムの洗浄回転時間が4秒正転、8秒停止、4秒逆転、8秒停止の繰り返しで洗浄するようになります。  
強浸し洗浄よりもさらに弱い洗いを必要とする時に使用します。

### 5-2 タイマーを0秒に設定したときの各行程の動き

#### 1) バッチ行程、アップダウン行程

行程時間が0秒となり、パスと同じとなります。  
但し、給液(70秒)のみの行程は行います。

#### 3) オーバーフロー行程

行程時間が0秒となり、パスと同じになります。

#### 4) 脱液行程

バランス回転の後、設定回転になるまで回転し、設定回転に到達するとすぐに減速して停止します。

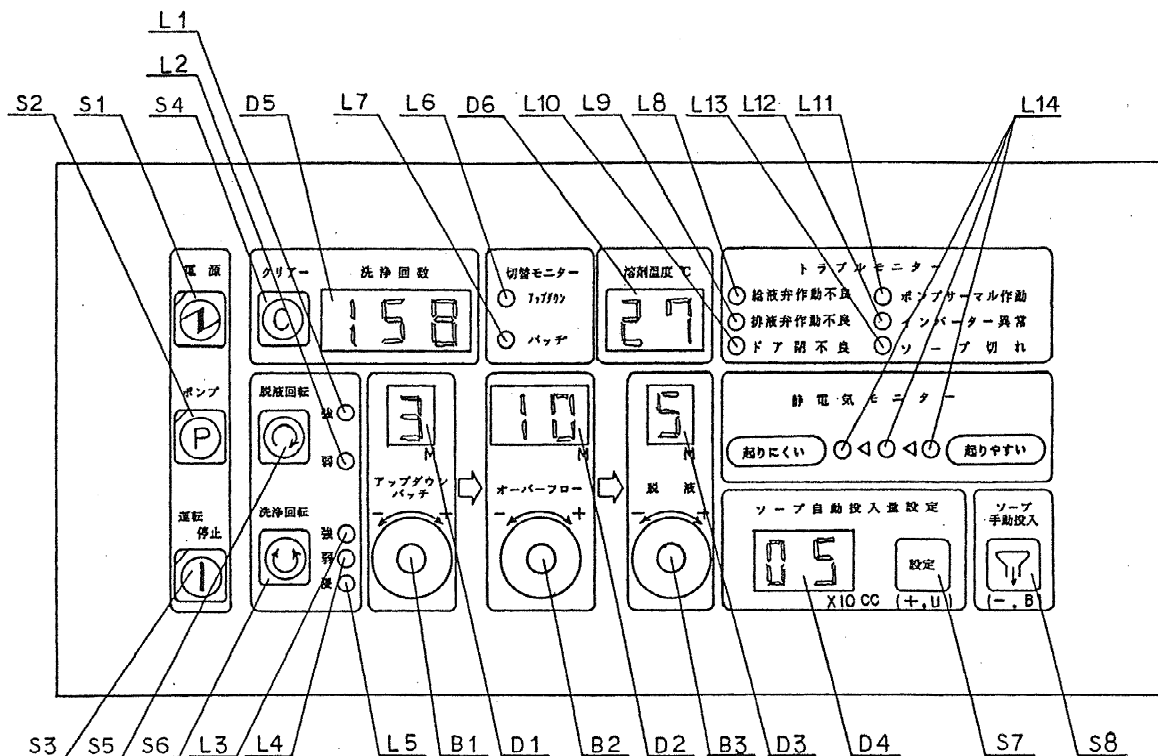
#### 5) すべての行程を0秒にした時

何も行いません。



## 6 操作パネルの説明及び静電気センサーの説明

### 6-1 操作パネルの説明



- S 1 ・電源ボタン・・・電源の『ON』『OFF』を行うスイッチです。
- S 2 ・ポンプ起動ボタン・・・ポンプの『ON』『OFF』を行うスイッチです。
- S 3 ・運転・停止ボタン・・・停止中に『ON』すると運転が開始し、運転中に『ON』すると停止します。
- S 4 ・洗浄回数クリアーボタン・このボタンを押したまま〔運転/停止〕(S 3)を押すと洗浄回数が0になります。
- S 5 ・脱液回転変更ボタン・・・脱液の回転を強脱液・弱脱液に切り替えるスイッチです。
- S 6 ・洗浄回転変更ボタン・・・洗浄の回転を強洗浄・弱洗浄・強浸し洗浄・弱浸し洗浄に切り替えるスイッチです。
- S 7 ・ソープ投入量設定ボタン・ソープの投入量を設定するスイッチです。このスイッチを押したままソープ手動投入ボタン(S 8)を押すと投入設定量が減算されます。
- S 8 ・ソープ手動投入ボタン・・・ソープを手動で投入するスイッチです。(投入量設定減算スイッチ兼用)
- B 1 ・バッチ・アップダウ 時間変更ボリューム・・・バッチ洗浄時間を変えるためのボリュームです。0分に設定することもできます。
- B 2 ・オーバーフロー時間変更ボリューム・・・オーバーフロー洗浄時間を変えるためのボリュームです。0分に設定することもできます。

B 3・脱液時間変更ボリューム・脱液時間を変えるためのボリュームです。  
0分に設定することもできます。

- L 1・強脱液設定表示ランプ・・・停止中に（S 5）を押すと強・弱のランプが交互に点灯し、脱液時の回転が強に設定された時に点灯します。
- L 2・弱脱液設定表示ランプ・・・停止中に（S 5）を押すと強・弱のランプが交互に点灯し、脱液時の回転が弱に設定された時に点灯します。
- L 3・強洗浄表示ランプ・・・停止中に（S 6）を押すと強・弱・強浸し・弱浸し、の順に点灯し、洗浄時の回転が強に設定された時と、強浸しに設定された時に点灯します。
- L 4・弱洗浄表示ランプ・・・停止中に（S 6）を押すと強・弱・強浸し・弱浸し、の順に点灯し、洗浄時の回転が弱に設定された時と、弱浸しに設定された時に点灯します。
- L 5・浸し洗浄表示ランプ・・・停止中に（S 6）を押すと強・弱・強浸し・弱浸し、の順に点灯し、洗浄時の回転が強浸しと、弱浸しに設定された時に点灯します。
- L 6・アップダウン表示ランプ・[クリアー]（S 4）を押した状態で、ソープ自動投入量設定[設定]（S 7）を押すと点灯し、洗浄方法がアップダウン洗浄に設定された事を知らせます。
- L 7・バッチ表示ランプ・・・[クリアー]（S 4）を押した状態で、[ソープ手動投入]（S 8）を押すと点灯し、洗浄方法がバッチ洗浄に設定された事を知らせます。
- L 8・給液弁作動不良ランプ・・・給液弁が動かなくなった時に点灯します。
- L 9・排液弁作動不良ランプ・・・排液弁が動かなくなった時に点灯します。
- L 10・ドア閉不良ランプ・・・ドアが閉じていない時に点灯します。
- L 11・ポンプサーマルランプ・・・ポンプのサーマルが作動したときに点灯します。
- L 12・インバーター異常ランプ・・・インバーターに異常が発生したときに点灯します。
- L 13・ソープ切れ表示ランプ・・・ソープ缶にソープがなくなった時に点灯します。
- L 14・静電気モニターランプ・・・洗浄中に静電気が『起りやすい』か『起りにくい』状態であるかを表示します。

- D 1・バッチ・アップダウン時間表示デジタル・・・バッチ行程又はアップダウン行程の設定時間及び、各行程の残り時間を表示します。
- D 2・オーバーフロー時間表示デジタル・・・オーバーフロー行程の設定時間及び、オーバーフロー行程の残り時間を表示します。
- D 3・脱液時間表示デジタル・・・脱液行程の設定時間及び、脱液行程の残り時間を表示します。
- D 4・ソープ投入設定量表示デジタル・・・ソープを自動で投入する場合の投入設定量及びソープ手動投入ボタン（S 8）を押して手動でソープを投入している間、投入量を表示します。
- D 5・洗浄回数表示デジタル・・・洗浄回数の積算値が表示されます。  
早送り確認表示デジタル・・・（S 8）を押したまま（S 5）を押すと、表示窓の右下に[ . ] が点灯し、行程が10倍の速度で進行していることを知らせます。  
修理・点検以外にこの操作は行わないで下さい。  
解除は同じ操作をもう一度行って下さい。
- D 6・溶剤温度表示デジタル・・・溶剤温度を表示します。  
ポンプを『ON』していないときは、溶剤が配管中を流れていないため、溶剤温度でなく配管中の空気の温度を表示しますので注意して下さい。

## 6-2 静電気センサーの説明

本機には、洗浄中の衣類に静電気が『起りやすい』か『起りにくい』かを判断する静電気センサーが内蔵されています。

このセンサーは溶剤の体積抵抗率（電気が流れる度合い）を測定し、電気が流れにくい場合は『起りやすい』流れやすい場合は『起りにくい』の所のランプが点灯します。

一般に物質は電氣的に中性の状態を保っていますが、二つの物体間の接触、剥離により静電気が発生します。この静電気が電気が流れにくい溶剤中で発生した場合、静電気が帯電（蓄積）をし、一定の帯電量まで蓄積すると気中放電（スパーク）をし、それが引火源となって溶剤に引火し、爆発を起こすことがあります。

また静電気は電気が流れやすい溶剤中では、発生した静電気が流れ（アースされる）て危険な帯電をしなことが分かっています。

溶剤の体積抵抗率と静電気の帯電状態の関係及び静電気センサーのモニターのランプとの関係は下表のようになっています。

体積抵抗率	$10^7$	$10^8$	$10^9$	$10^{10}$	$10^{11}$	$10^{12}$	$10^{13}$	$10^{14}$	$10^{15}$	$10^{16}$	$10^{17} (\Omega\text{-Cm})$
	半導電性液体			絶縁性液体							
	危険な帯電を生じさせない物質			帯電する可能性のある物質	強く帯電する可能性のある物質			非常に強く帯電する物質			
静電気モニターランプ	起りにくい			中央	起りやすい						

従って、衣類の洗浄は必ず静電気モニターランプが『起りにくい』の側に点灯している状態で使用して下さい。

### 危険

静電気モニターランプが『起りやすい』もしくは『中央』に点灯している状態で使用しますと静電気により火災や爆発が起きる可能性が高くなります。  
必ずモニターランプが『起りにくい』に点灯している状態で使用して下さい。

『中央』のランプは『起りやすい』を表示する前に、ソープを加えて戴くために便宜上設けたものです。従って『中央』を表示したら、直ちにソープを加えて『起りにくい』を表示するようにして下さい。

静電気センサーのセンサー部が汚れますと、正確な測定ができなくなりますので半年に1度、12-1項の静電気センサーの構造と点検に従ってセンサー部の掃除を行って下さい。静電気モニターランプの点灯は、ポンプを『ON』してから2分後に点灯します。尚、安全確保のため『起りやすい』に点灯した場合機械は、モニターランプが『中央』若しくは『起りにくい』に点灯するまで動かなくなります。

## 7 運転の仕方

### 7-1 行程の設定方法

- 1) 元電源（3相AC200V，単相AC100V）を『ON』にしてください。
- 2) [電源]（S1）ボタンを押します。（パネル上のランプがすべて点灯し、約5秒後にマイコンが運転状態になります）
- 3) バッチ洗浄を行うか、アップダウン洗浄を行うかによって、次の操作を行ってください。

☆アップダウン洗浄で行いたいとき。

[クリアー]（S4）を押したまま、[設定]（S7）を押すとランプ（L6）が点灯し、洗浄方法がアップダウン洗浄に設定された事を知らせます。

☆バッチ洗浄で行いたいとき。

[クリアー]（S4）を押したまま、[ソープ手動投入]（S8）を押すとランプ（L7）が点灯し、洗浄方法がバッチ洗浄に設定された事を知らせます。

- 4) 時間設定ボリューム（B1）（B2）（B3）を回してバッチ又はアップダウン、オーバーフロー、脱液の時間を設定して下さい。通常はアップダウン時間3分、オーバーフロー時間10分～15分、脱液5分です。
- 5) 洗浄回転設定ボタン（S6）を押して[強]に設定します。
- 6) 脱液回転設定ボタン（S5）を押して[強]に設定します。
- 7) ソープ自動投入量を[設定]（S7）ボタンで設定します。『（S7）を押したまま（S8）を押すと設定量が減算します』  
各ソープメーカーの種類により投入設定量が違って来ますので、ご使用のソープメーカーに投入量を確認し設定して下さい。

☆投入量は表示の数字×10ccとなりますので注意して下さい。

☆設定された投入量は毎ワッシャー投入されます。

### 7-2 行程の変更方法（機械停止中にしか行えません）

- 1) 変更したい箇所の変更を[7-1 行程の設定方法]の項の要領で行ってください。

☆運転中は変更操作を行っても変更することはできません。

☆運転中に時間設定のボリュームを回しますと、行程終了後に変更された時間が表示されますので注意して下さい。

### 7-3 その他の操作方法

- 1) 停止の仕方

運転中に[運転/停止]ボタン（S3）を押すと機械は止まります。

☆緊急に停止させたい時は[電源]（S1）を『OFF』して下さい。

- 2) ソープの手動投入の仕方  
機械の運転中・停止中に関係なく[ソープ手動投入](S8) ボタンを押している間、ソープが投入されます。  
投入量は[ソープ投入量表示](D4) デジタルに表示されます。
- 3) 洗浄回数のクリアーの仕方  
洗浄回数をクリアー“0”にしたいときは、[クリアー](S4) ボタン押したまま[運転/停止](S3) を押すと洗浄回数が“0”になります。

#### 7-4 隠しスイッチの操作方法

- 1) オールクリアーを行うとき  
ノイズとかの影響で、マイコンの制御が正常でなくなった時に行う操作です。  
  
[電源](S1)を『OFF』します。  
洗浄回数[クリアー](S4)を押したまま、[電源](S1)を『ON』します。
- 2) [FL]モード機能  
フィルター交換時に、ベースタンクの溶剤をドラムに一時的に汲み上げるときなどに使用します。  
  
[電源](S1)を『OFF』します。  
[設定](S7)と[クリアー](S4)を押したまま、[電源](S1)を『ON』します。  
  
[溶剤温度表示デジタル](D6)の窓に[FL]の文字が表示されます。  
この状態で使用出来るスイッチは下記のスイッチとなります。  
  
[電源](S1)・・・マイコンの電源が入り切り出来ますが、通常の操作で操作しても[FL]モードになります。[FL]モードの解除はもう一度[設定](S7)と[クリアー](S4)を押したまま、[電源](S1)を『ON』して下さい。  
[ポンプ](S2)・・・ポンプの入り切りが出来ます。  
[洗浄回転](S6)・・・このスイッチを『ON』すると給液弁が開きます。  
『OFF』すると給液弁が閉まります。  
[脱液回転](S5)・・・このスイッチを『ON』すると排液弁が開きます。  
『OFF』すると排液弁が閉まります。
- 3) チェックとかテストで全行程時間を早く進めたいとき  
全行程時間を早く進ませてチェックを行いたい場合は、[ソープ手動投入](S8) を押したまま[脱液回転](S5)を押すと[洗浄回数表示デジタル](D5)の表示窓右下に[.]が表示されます。この表示が出ているときは、タイマーの進む速度が10倍になっています。  
通常の行程でのご使用はしないで下さい。  
解除する場合は、同じ操作をもう一度行って下さい。

#### 7-5 表示デジタルの見方

- 1) [バッチ時間] 又は [アップダウン時間] (D1) デジタル表示  
表示は「分」で表示されています。設定範囲は0～9分です。
- 2) [オーバーフロー時間] (D2) デジタル表示  
表示は「分」で表示されています。設定範囲は0～30分です。

- 3) 【脱液時間】 (D 3) デジタル表示  
表示は「分」で表示されています。設定範囲は0～9分です。
- 4) 【ソープ自動投入量】 (D 4) デジタル表示  
洗浄時に自動投入されるソープの投入量が表示されています。投入される量は表示の数字×10ccとなりますので注意して下さい。  
例えば表示が【05】と表示されている場合は、 $5 \times 10 = 50$ ccつまり50ccが毎回自動投入されます。  
設定方法は7-1項「行程の設定方法」を参照下さい。
- 5) 【洗浄回数】 (D 5) デジタル表示  
洗浄した回数が積算されて表示されます。洗浄回数を0にする方法は7-3項「その他の操作方法」を参照下さい。  
又、この表示窓は【早送り設定確認表示】としても使用されることがあります。
- 6) 【溶剤温度】 (D 6) デジタル表示  
通常モードでは溶剤温度が表示されます。  
手動モードにするとこの窓に【FL】が表示され、手動モードになっていることを知らせます。
- 7) 静電気モニター表示ランプL14について  
本機には、6-2項(静電気センサーの説明)で説明したように、洗浄中に静電気が発生するかどうかを測定する静電気センサーが内蔵され、静電気センサーで測定された結果は、静電気モニター表示ランプに『起りにくい』『中央』『起りやすい』の3段階で表示されるようになっています。  
洗浄中の静電気は、モニターのランプが『起りにくい』に点灯している以外は発生します。必ず『起りにくい』の所に点灯している状態で使用するようして下さい。  
『起りにくい』以外で使用すると引火爆発の可能性があります。又、静電気モニター表示ランプの点灯位置により、次頁の運転状態になりますので注意して下さい。

#### 静電気モニター表示ランプが

- 『起りやすい』・・・機械の運転が行えません。自動運転中に点灯すると、その時点で機械の運転が中止されます。ソープをベースタンクに補充し、モニターランプが『中央』又は『起りにくい』にならないと運転することが出来ません。
- 『中央』・・・・・・自動運転開始時(【運転】(S3)ボタンを『ON』した時)にピー、ピー、ピー、の警報音が一度だけ出て真ん中に点灯していることを知らせます。
- 『起りにくい』・・・警報音は何も出ません。

注1) ポンプボタンを『ON』してから約1分後に静電気モニターのランプがいずれかに点灯しますが、静電気モニターのランプが点灯していないとき、又は『起りやすい』に点灯したときは、自動運転が出来ないようになっていますので注意して下さい。

注2) 静電気モニターのランプが『起りやすい』に点灯した時は、ソープ濃度を測定し、適正なソープ濃度になるまで、ポンプ循環を行なった状態で、ベースタンクに直接ソープを投入して下さい。ソープを投入してからしばらくしないと、静電気センサー部にソープの混合液が来ないため、モニターのランプが変わりませんので注意して下さい。

## 7-6 運転方法

運転を行う前に次の事を点検して下さい。

- ☆元電源スイッチ(3相AC200V、単相AC100V)が『ON』になっているか
- ☆プレフィルター、カートリッジフィルター、カーボンタンク、及び バスケット (ドラム) のフタは確実にしまっているか
- ☆ダストフィルターの掃除はしているか
- ☆ポタントラップの掃除はしているか
- ☆溶剤は規定量 (ポタントラップ受け板の約10mm上まで) ベースタンクに入っているか
- ☆手動バルブ類はしまっているか

### (1) 自動運転を行う時

#### § 自動運転ができない条件 §

- ◇バスケット (ドラム) のフタが閉まっていないとき。
- ◇静電気モニターのランプが点灯していないとき。又はモニターのランプが『起りやすい』に点灯しているとき。
- ◇トラブルモニターのランプ (L8~L12) が点灯しているとき。

- 1) [電源] (S1) ボタンを押して下さい。  
パネル上のランプがすべて点灯し、約10秒後に正常なランプの点灯に変わります。  
(この間に、切替弁と排液弁の動作確認を行っています。)
- 2) [ポンプ] (S2) ボタンを押して下さい。  
ポンプが起動し、液はベースタンク→ポンプ→カートリッジフィルター→カーボンタンク→給液切替弁→ベースタンクの経路で流れるバイパス循環を行います。  
サイトグラスを流れる溶剤が透明になるまで循環して下さい。
- 3) 行程の設定を確認して下さい。変更する場合は、変更を行って下さい。
- 4) [運転] (S3) ボタンを押して下さい。  
設定された内容で自動運転を開始します。進行中の行程箇所は数字の点滅で知らせます。
- 5) 設定された行程が終了すると、終了ブザーを鳴らして自動停止します。

## 8 ベースタンクからドラムへの溶剤の移し方

### 危険

- ベースタンクの液量が、フィルタの液落としを行う場合、150L以下(ポタントラップ上面)フィルタとカーボンタンクを同時に液落としを行う場合、120L(ポタントラップ上面から約40mm下)になっていない時は、下記の要領で必ずドラムに溶剤を汲み上げてから、液落としを行って下さい。そのまま液落としを行いますと溶剤がベースタンクよりあふれ出ます。
- ドラムからベースタンクへ落す際は、ドラム内の液が完全に排液されるまで、機械の前を離れないでください。

- 1) 電源が入っている場合は、[電源] S 1 を切って下さい。
  - 2) [設定](S 7)と[クリアー](S 4)を押したまま、  
[電源](S 1)を『ON』します。・・・[溶剤温度表示デジタル](D 6)の窓に[FL]の文字が表示され、手動モードに切り替わります。
  - 3) [ポンプ](S 2)を『ON』にします。・・・溶剤がサイトグラスを通過するまでこの状態で待って下さい。
  - 4) [洗浄回転](S 6)を押します。・・・給液弁が開きドラムに溶剤が汲み上げられます。ドラムより溶剤がオーバーフローを始めるまで待ってから
  - 5) [洗浄回転](S 6)を再度押します。・・・給液弁が閉まります。  
5分程度して、ポタントラップへ溶剤が流れてきていないことを確認してください。  
[電源]を『OFF』にし、カートリッジフィルターの溶剤をベースタンクに落とした後、エレメントの交換を行って下さい。
  - 6) [電源]を『ON』にします。・・・[FL]の文字が溶剤温度の窓に表示 されます。
  - 7) [ポンプ](S 2)を『ON』にします。・・・溶剤がサイトグラスを通過するまでこの状態で待って下さい。
  - 8) [脱液回転](S 5)を『ON』します。・・・排液弁が開きドラム内の溶剤がベースタンクに落とされます。  
溶剤が完全に落ちるまで待って下さい。
- 注意!** ベースタンクの液量を確認しながら、[脱液回転]を『ON』『OFF』し溶剤を落して下さい。
- 9) [電源](S 1)を『OFF』します。
  - 10) [設定](S 7)と[クリアー](S 4)を押したまま、  
[電源](S 1)を『ON』します。・・・標準の自動モードに戻ります。

注1) [FL] モードの状態、通常通りの[電源](S 1)を入り切りしても [FL] モードのままとなります。[FL] モードの解除はもう一度[設定](S 7)と[クリアー](S 4)を押したまま、[電源](S 1)を『ON』しないと解除出来ませんので注意して下さい。

### 危険

ドラムに溶剤を汲み上げた状態で [FL] モードを解除すると、排液弁が開きドラムの溶剤がベースタンクに落とされ、ベースタンクより溶剤があふれることがあります。



## 9 外圧式カートリッジフィルターの取り扱い

9-1 ベースタンクからドラムへの溶剤の移し方  
8 項を参照してください。

9-2 カートリッジフィルターの仕様

エレメント..... 外圧式粒状カーボン、アルミナ入りペーパーフィルター  
寸 法..... 196φX365LX2本

9-3 交換時期の目安

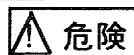
カートリッジフィルター圧力(C.F.)からカーボンタンク圧力(C.T.)を引いた差圧が下記の値を超える時

(C.F.) - (C.T.) = 0.1~0.12MPa  
又は、酸価値が0.5を超える時

※フィルタとカーボン交換時は約0.02MPa  
(使用されるフィルタやカーボンにより異なる)  
両方の圧が高い場合は、カーボンの詰め過ぎの可能性がります。

9-4 エレメントの交換手順

a) フィルター液落としバルブを開け、フィルターの液を落として下さい。

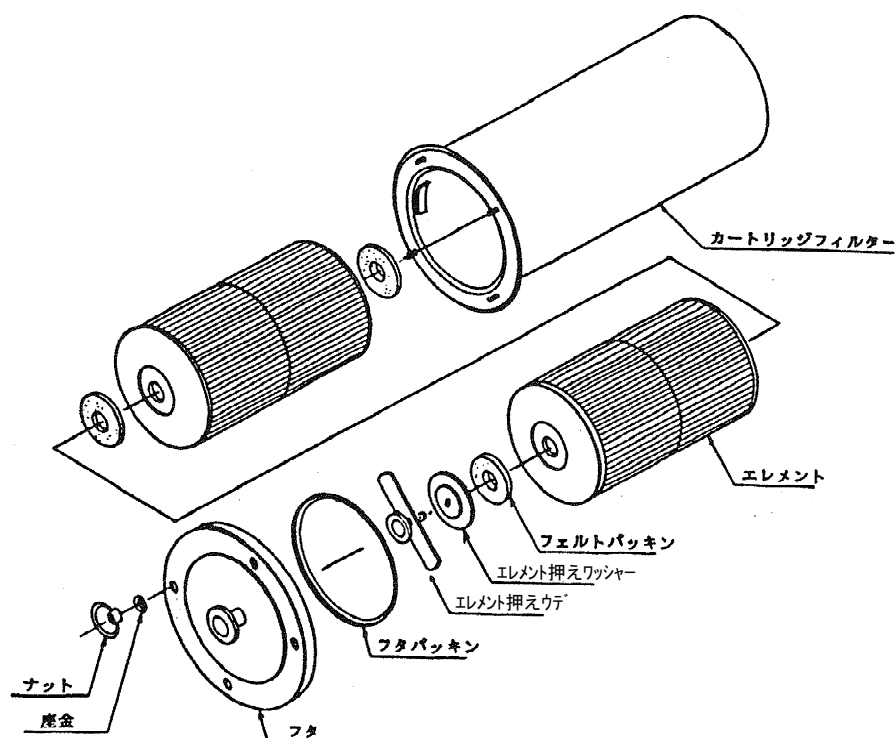


**危険**

ベースタンク溶剤量に注意！

ベースタンクの溶剤量が、ベースタンクの液位表示箇所以下であることを確認。  
多い場合は、8 項の要領でドラムに溶剤をくみ上げて下さい。

- b) フィルター液落としバルブ開けてから、必ず1時間以上経過してナットを緩めてフタを開けます。  
c) エレメント押えウデのナットを緩めて外し、エレメント押えワッシャーを外します。  
d) エレメントを手前に引き出します。  
e) エレメントを交換し、逆の手順でセットします。



## 10 カーボンタンクの取り扱い

10-1 ベースタンクからドラムへの溶剤の移し方  
8項を参照してください。

### 10-2 カーボンタンクの仕様

使用カーボン..... 粒状カーボン（脱酸剤入り）  
使用量..... 20ℓ

### 10-3 交換時期の目安

酸価値..... 0.5以上になった時  
目視状況..... 溶剤が着色し始めた時

上記のいずれかの状況になった時は、速やかに交換を行って下さい。

### 10-4 交換手順

a) カーボンタンク液落としバルブを開け、カーボンタンクの液を落として下さい。

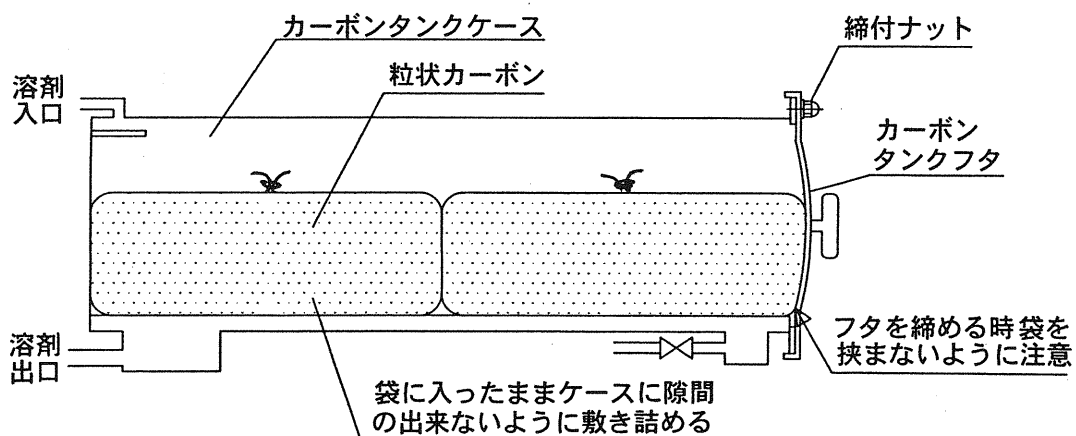


**危険**

ベースタンク溶剤量に注意！

ベースタンクの溶剤量が、ベースタンクの液位表示箇所以下であることを確認。  
多い場合は、8項の要領でドラムに溶剤をくみ上げて下さい。

- b) カーボンタンク液落としバルブ開けてから、必ず1時間以上経過してナットを緩めてフタを開けます。  
c) カーボン押さえ板を取り出します。  
d) カーボンの袋を取り出し、新しいカーボンをセットします。この時隙間が出来ないようにセットして下さい。  
e) カーボンを交換し、逆の手順でセットします。



## 11 各機器の点検調整

### 11-1 排液弁構造図

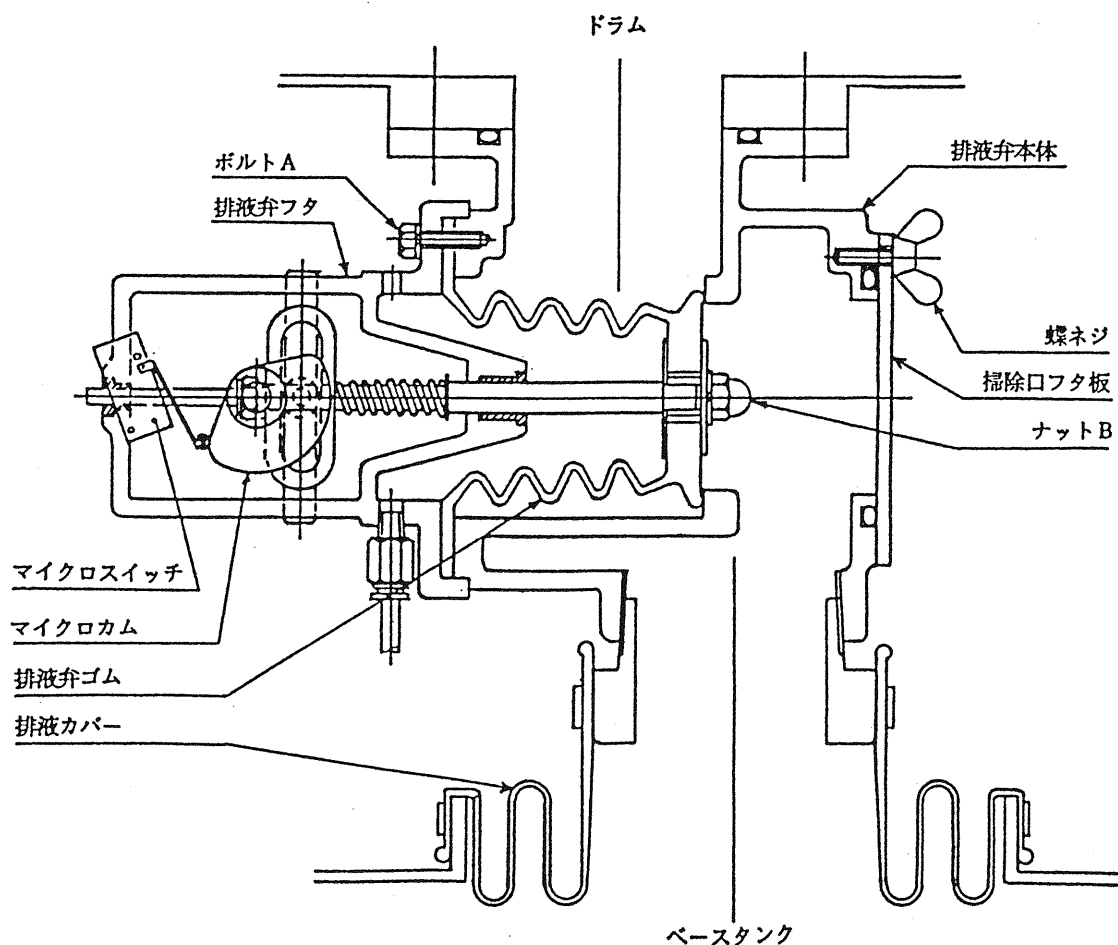
本機の排液弁は、ギヤーモーター駆動方式の弁で、ケーシングの真下中央に取り付けてあり、構造は下図のようになっています。排液弁の掃除又は、排液弁ゴムの取り替えや、点検が必要になったときは、下図の要領で行って下さい。

#### 排液弁を掃除するとき

- 1) 蝶ねじをとり、掃除口フタ板を外して弁部を掃除します。

#### 排液弁ゴムを取り替えるとき

- 1) ボルトAを緩め、排液弁フタ部を本体より取り外します。
- 2) ボルトBを緩め、排液弁ゴムを取り外します。
- 3) 排液弁ゴムを取り替え、逆の手順で組み立てます。



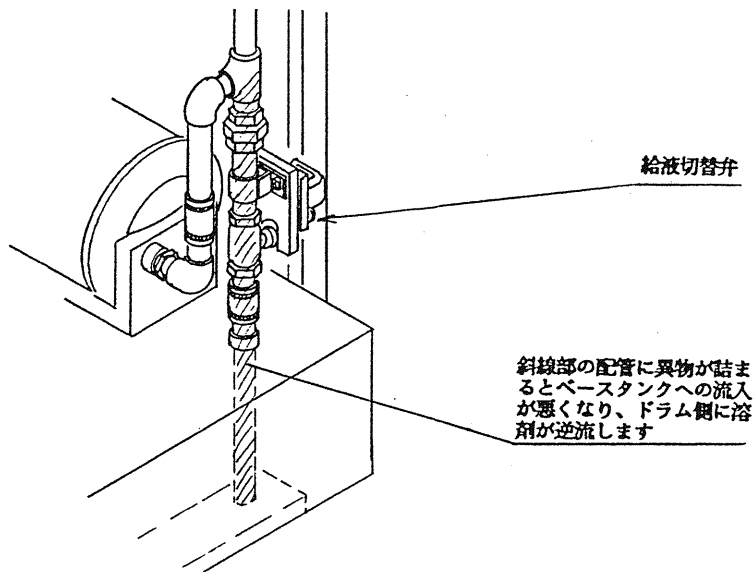
## 11-2 給液切替弁構造図

給液切替弁は下図のようになっており、ギヤードモーターによって切替が行われています。点検及び調整を行う場合は、下記によって下さい。

★ポンプを[ON]しただけで、ドラムに溶剤が入ってくる時（原因は2つ考えられます）

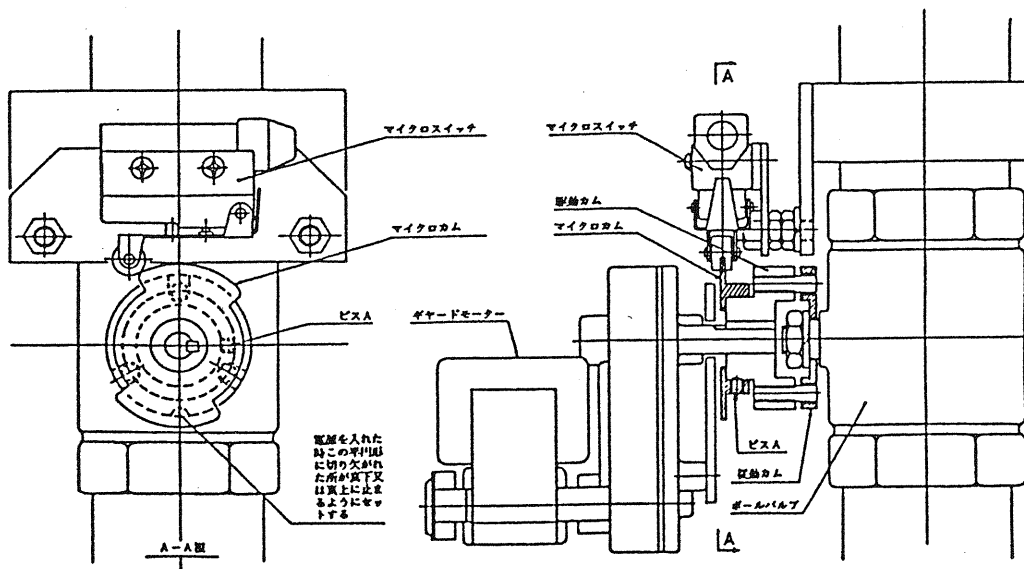
### 1) 給液切替弁 ⇨ ベースタンク間の配管中にゴミ等の異物が詰まった場合

ベースタンクへの溶剤の循環が悪くなるため、ドラムの方に溶剤が逆流してきます。  
対策... 配管を点検し異物を取り除いて下さい。



### 2) 給液切替弁の切替位置がずれた場合

給液切替弁の切替位置がずれると、ドラムに溶剤が入ってきます。  
対策... 切替弁に取り付けられている従動カム、半円形に切りかかれた所が、真下に止まるようにビスAを緩め、マイクロカムを回して調整して下さい。



## 12 各センサー部の点検整備

### 12-1 静電気センサーの構造と点検

本機には、洗浄中衣類に静電気が「起こりやすい」状態であるか、「起こりにくい」状態であるかを判断する静電気センサーが、機械後部配管中に取り付けられています。  
これは洗浄している溶剤中の、電気の流れ具合を測定し、流れにくい場合は「起こりやすい」流れやすい場合は「起こりにくい」を表示するようになっています。

静電気センサーはソープ濃度センサーではありません。

静電気センサーは溶剤の電気伝導度を測定しています。ソープ濃度を測定しているものではありません。水などの導電性液体が入っても「起こりにくい」を表示します。  
ソープのチャージ量と、帯電防止効果は比例しますが、ソープの種類によってその効果は違います。帯電防止効果の高いソープは推奨品リスト(この推奨品は市販されているすべてのソープを対象にしたものではありません)に記載されています。

静電気センサーが「起こりにくい」を表示しない時

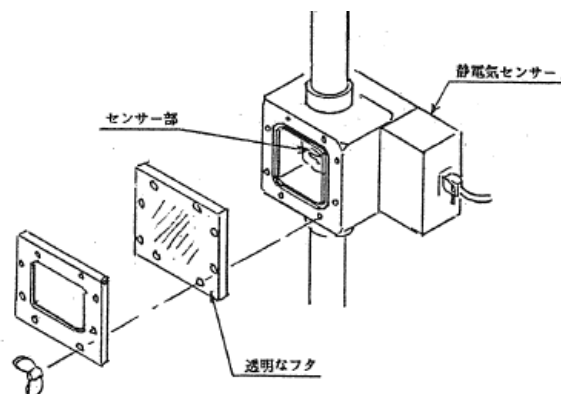
- a) 推奨品のソープを使用していますか？  
推奨品以外のソープの場合は、ご使用のメーカーに帯電防止効果の度合いを確認して下さい。
- b) ソープ濃度は適正ですか？  
必ずソープの度を測定し、ソープメーカー指定の濃度をチャージして下さい。
- c) 静電気センサーの中を溶剤が流れていますか？  
ポンプ運転中に溶剤が循環しているか確認して下さい。
- d) 静電気センサーのセンサー基板が汚れていませんか？  
機械後部配管途中に取り付けてある静電気センサーのセンサー部を、基板洗浄剤を浸した柔らかい布で、拭いて下さい。  
**「注意」このセンサー測定部に使用している基板は、正確な測定を行うため、金メッキが施されていますので、強く拭くと基板表面の金メッキパターンが剥がれて正確な測定が行えなくなります。**
- e) 静電気センサーにつながっている電線が断線していませんか？  
テスターで断線していないか確認して下さい。

注)上記の項目がすべて適正であるのに「起こりにくい」にランプがつかない場合は、機械の使用を中止し、当社もしくはソープメーカーに相談して下さい。

注)モニターのランプが「起こりにくい」に点灯している時以外は、機械の運転を行わないで下さい。  
静電気により引火爆発の可能性があります。

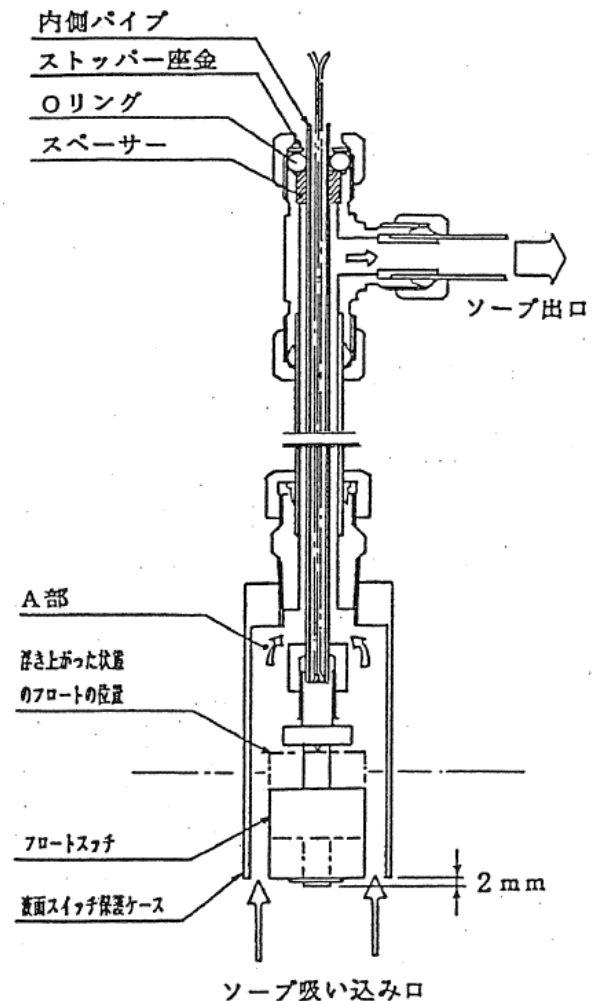
注)「中央」のランプは「起こりやすい」を表示する前に、ソープもしくは帯電防止剤を加えて戴くため、便宜上設けたものです。従って「中央」を表示したら、直ちにソープもしくは帯電防止剤を加えて「起こりにくい」を表示するようして下さい。

基板の掃除は、透明なふたを外して行って下さい。  
掃除が終わった後は、確実にフタをしないと、溶剤がこぼれる事があります。



## 12-2 ソープ切れセンサーの構造と点検

- 本機には、自動ソープ投入機が内蔵されています。この自動ソープ投入機の先端は、ソープ吸込口兼ソープ切れセンサーとなっています。このソープ切れセンサーは、フロート方式のセンサーで、ソープが無くなると、トラブルモニター内のソープ切れLEDが点灯します。ソープを補充してください。  
ブザーは鳴りません
- このソープ切れセンサーは、フロート方式のため、吸込部が大きくなっています。吸い込み部の大きさは、34 mmで一部入らないソープ缶があります。この場合は、入るソープ缶に移し替えてご使用下さい。
- ソープが無くなっているのにソープ切れLEDが点灯しない時は、フロートを手で上下に動かして、LEDがついたり消えたりするか、確認して下さい。又この時、フロートが軽く動くかどうか確認して下さい。手で動かしても点灯しない場合は、フロートスイッチの交換が必要です。
- ソープ缶を取り替えた直後ソープ切れLEDが点灯することがあります。これはセンサーの故障ではなく、「A」部に空気がたまり、フロートが浮き上がっていないために起こります。この場合は、[ソープ手動投入]ボタンを4～5秒押すと空気が排出され、フロートが浮き上がってソープ切れLEDが消灯します。

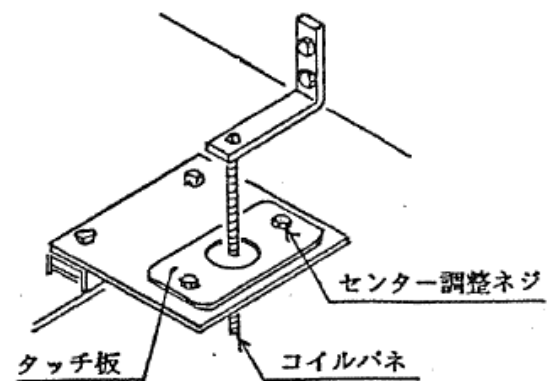


## 12-3 振動検知スイッチの調整

- 本機では、品物のさばきがうまくゆかず、許容以上のアンバランスを生じた場合、振動検知スイッチが作動して、機械を一時停止させるようになってます。
- このスイッチが作動した時は、機械が一時停止し、再度バランス回転を行い、脱液を行います。この操作が5回繰り返されると、脱液を中止します。
- 中止した場合は、品物のもつれを直し、脱液だけの行程にて再度脱液を行って下さい。
- 振動検知スイッチは、ケーシング上部に取り付けられています。

検知スイッチは、コイルバネとタッチ板が触れると作動しますので、調整は品物をバスケットに入れた状態で、コイルバネがタッチ板の穴の中央になるように調整して下さい。

**「注意」** 1か月に1度、検知の妨げとなる可能性のあるグリスやホコリなど付着がないか確認し、スプリングの折れ、ケーブルの断線がないか確認してください。



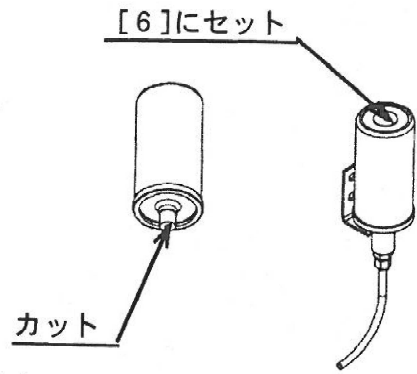
## 13 機械の保守、点検、掃除

### 13-1 機械の保守

#### 1) 給油（付属オートグリスの取付方法）

- ・ 封印キャップ先端突起部のみをカットする。
- ・ 3mm六角レンチを使用し、上部のガスゼネレーターの数値[6]に△印を合わせる。
- ・ ※目盛りの数値は使用ヶ月ではありません
- ・ 側面に使用開始日を記入する。
- ・ 給油ソケットにねじ込む。

☆取付方法は、取扱説明書の最後のページに記載されています。



### 13-2 機械の点検、調整

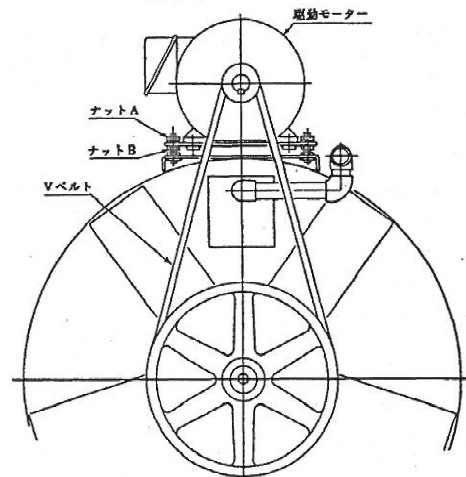
#### 1) Vベルトの点検、調整

**危険** 点検及びベルト張りの作業は、必ず元電源を切ってから行うこと

Vベルトの張り具合は、ベルトの中央付近を手で押して、少したわむぐらいが適当です。

ベルトの張りすぎは、モーターへの過負荷となるばかりでなく、主軸ベアリングの寿命を短くします。

ベルト張りの作業手順



ナット"A"(4箇所)  
を緩める



ナット"B"(4箇所)  
でベルトを張る



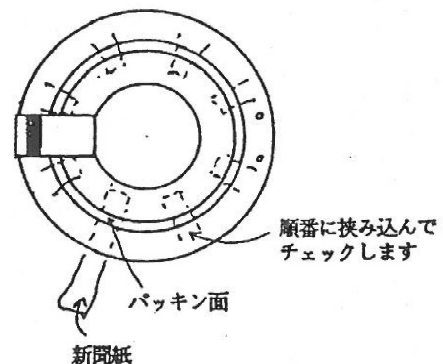
ナット"A""B"を  
確実に絞める

注意 ナットは4箇所同じように調整して下さい。

#### 2) フタの点検、調整

フタ部パッキンより液漏れがある場合は、下記の要領で調整を行って下さい。

- 新聞紙を3Cm幅位の短冊状に切ります。
- それを右図のようにパッキン面に挟み、手でフタを押し込んだ状態で、新聞紙を引っ張ります。  
当たり面が悪い時は、新聞紙は切れずに抜けます。
- この作業を、全周8等分箇所で行います。

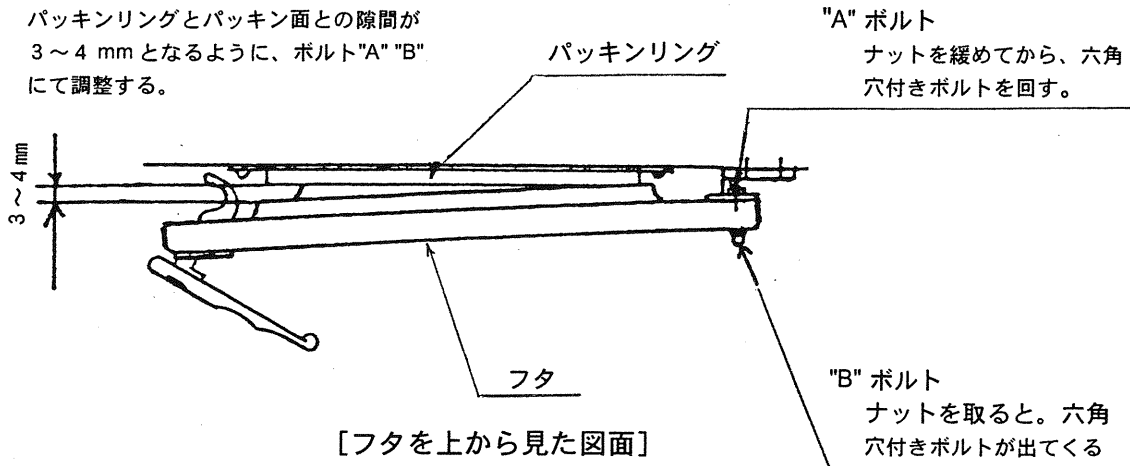


新聞紙が切れなかった位置が右半分側の時・・・蝶番部の調整を行います。

新聞紙が切れなかった位置が左半分側の時・・・掛け金具部の調整を行います。

## 2-1 蝶番部の調整

"A" ボルト、"B" ボルトにて、パッキンリングとパッキン面の隙間が、下図の寸法になるように調整します。



"B" ボルトを緩め、"A" ボルトを締める ⇒ 隙間が広くなる  
"A" ボルトを緩め、"B" ボルトを締める ⇒ 隙間が狭くなる  
上下のボルトは均等に調整して下さい。

## 2-2 掛け金具部の調整

ナット"C"、ナット"D"にて調整を行います。

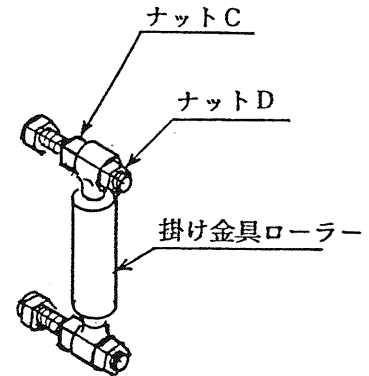
ナット"C"を緩めナット"D"を締める

↓  
締まりが強くなる

ナット"D"を緩めナット"C"を締める

↓  
締まりが弱くなる

調整後のボルト、ナットは確実に締めておいて下さい。



## 3) ゴムホースその他パッキン類の点検

本機には、下記に示す箇所にゴムホースが使用されています。  
定期的に点検を行って下さい。又、その他液漏れがないか点検し、液漏れがある場合は、  
調整若しくは修理を行って下さい。

給液切替弁とドラムとの接続部（給液ホース）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1本  
 排液弁とタンクの接続部分（排液化バー）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1本  
 オーバーフローとタンクの接続部分（排液カバー）・・・・・・・・・・・・・・・・ 1本  
 その他ビニール、エアーホース類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 数カ所

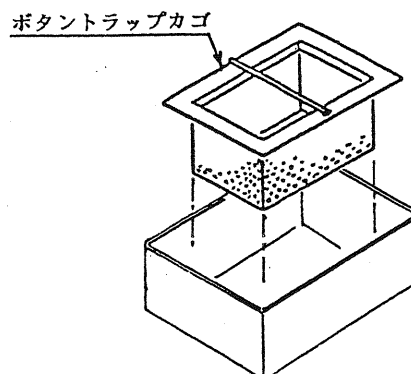


### 13-3 機械の掃除

#### 1) ポタントラップの掃除

本機のポタントラップは、右図のようにカゴ型方式となっていますので、よく掃除をして下さい。

特に毛布などのような、毛埃が多くでるようなものを洗浄した後は、その都度注意して掃除をしないと、タンクより溶剤がこぼれることがあります。



## 14 インバーター及びオーバーロードについて

### 14-1 インバーターについて

本機はインバーター駆動方式になっています。通常の使用中に、[Er22]が表示され、機械が止まる事があります。このメッセージは、インバーターに異常が起きた時に表示されます。

この場合は、[オーバーロードについて]の項の指示に従って処理をしてください。

インバーターは、本機の後部の上に取り付けられています。

このインバーターは、インバーターに取り付けられている操作パネルで、手動運転をする事も出来ますが、操作を間違えると、中のデータが書き換わる事がありますので、操作をしないようにして下さい。

### 14-2 オーバーロードについて

#### 1) インバーターエラー[Er22]

規定以上の負荷が掛かると、インバーター及びモーター保護のために、インバーターエラー[Er22]表示して、機械を停止します。保護のため自動停止したトラブルについては、電源を切って再度[ON]すると復帰しますが、インバーター自信が故障した時は復帰できません。

この時は、異常表示の内容がインバーター本体の操作パネル **LED 表示窓に表示されます。**

表示される**エラー記号**を確認し、メーカーに**連絡して下さい。**

復帰しないインバーター異常が発生した時は、電源を切って再度[ON]しても、数秒後にインバーターの電源が [OFF]されます。後で表示を見ている状態で、他の人に電源を入れてもらって、表示されている間に表示記号を確認して下さい。

電源を再度[ON]しても、**LED 表示窓に表示されない場合はインバーターを交換**して下さい。

異常表示の内容は付属のインバーターのマニュアルを参照し、異常内容を確認して下さい。

<下記を参照>

TOSHIBA 「運転中・トリップ発生時の状態をモニタする」

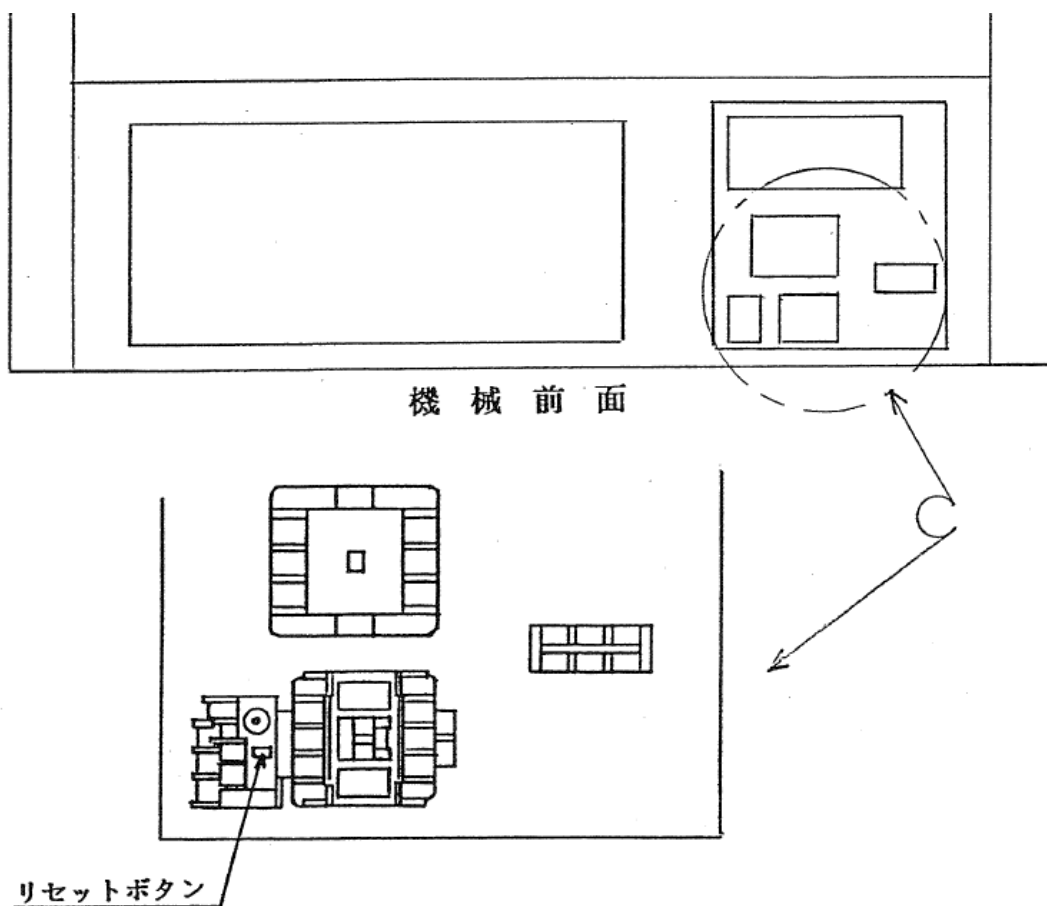
## 2) サーマルエラー[Er16]

本機に搭載されているポンプは、規定以上の負荷が掛かると、モーターの焼損を防止するため、モーターの電流を遮断するサーマルプロテクターが付いています。

サーマルプロテクターが作動した場合は、下記の事項を点検の上、手動でサーマルを解除して下さい。サーマルプロテクターは、機械上部の制御ボックス内に取り付けられています。

### 点検事項

- 1) ポンプの羽根にゴミが溜まっていないか点検して下さい。
- 2) ポンプの羽根が破損していないか点検して下さい。
- 3) 単相運転(3本線のうち1本が切れたり、弛んだりした時)になっていないか点検して下さい。
- 4) モーターが異常に過熱していないか点検して下さい。(モーターのベアリング等が破損した時などに起こる)



サーマルプロテクターが作動したときは、リセットボタンを押して解除してください。

## 15 エラー表示内容

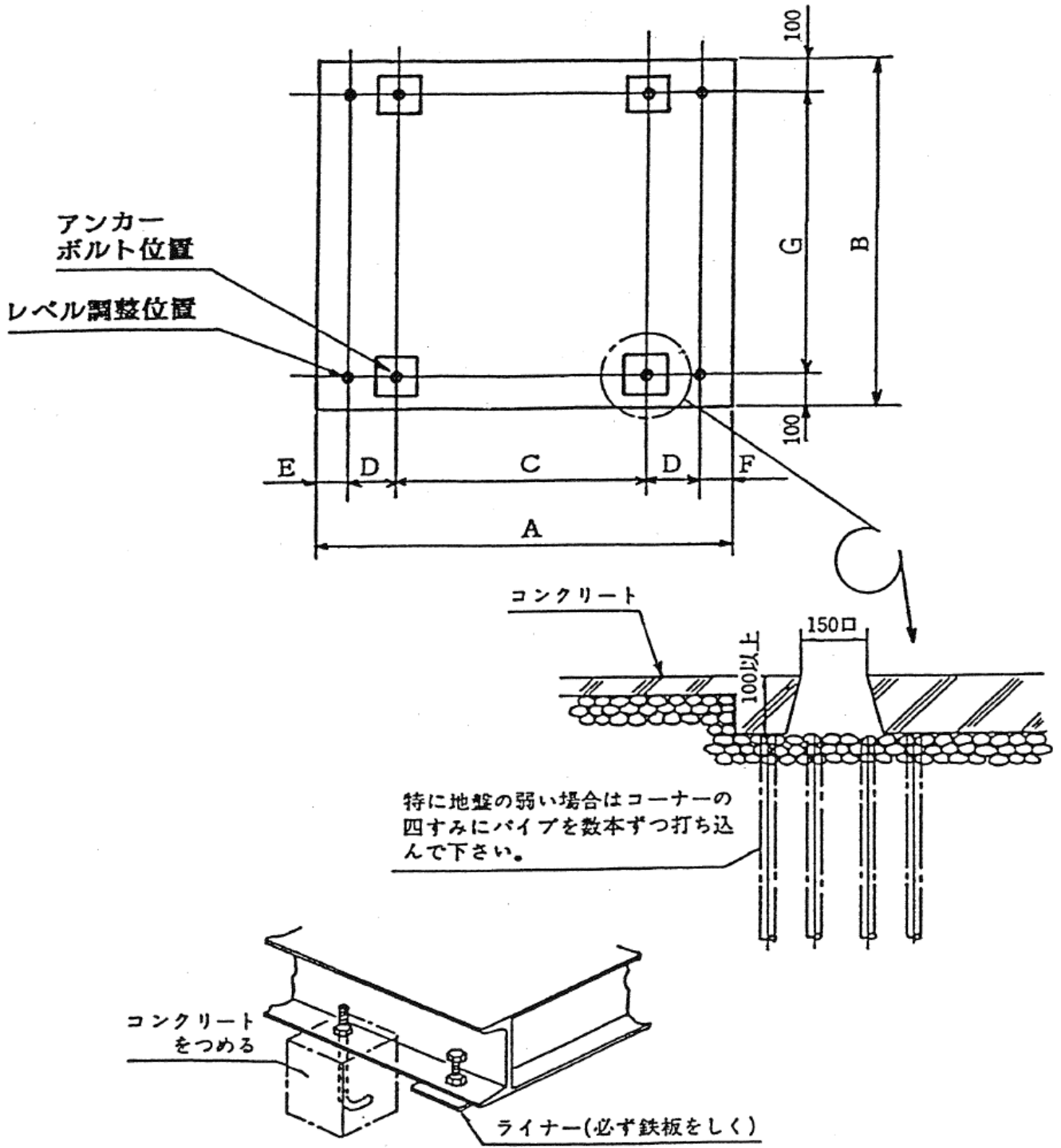
Er01・キー操作エラー	.....	操作できないキーを押したときに表示
Er02・工程時間エラー	.....	時間が全て 0 秒の時「運転」を押すと表示
Er07・温度エラー	.....	溶剤温度が 36℃以上になったときに表示 <b>※停止しません</b>
Er09・システムエラー	.....	マイコン異常が発生した時に表示
Er12・給液弁エラー	.....	給液切替弁が作動しない時に表示
Er14・排液弁エラー	.....	排液弁が作動しない時に表示
Er15・振動エラー	.....	振動検知が5回作動した時に表示
Er16・サーマルエラー	.....	ポンプサーマルが作動した時に表示
Er17・ドアエラー	.....	運転中にドアが開いた時に、ドアロックが外れた時に表示
Er22・インバーターエラー	.....	インバーター不良が発生した時に表示
Er28・ストールエラー	.....	時間内に指令速度に達しない時に表示

## 16 主な洗濯物の投入量

投入量が多すぎる場合は、過負荷となりインバーターエラーや、機械の寿命を短くする原因となります。逆に少ない場合は、脱液時のバランスが取りにくくなりますので、下表を参照の上規定重量を守って下さい。

品名(重量 kg)	DO100	品名(重量 kg)	DO100
上着 1.00	10 枚	和服コート 2.00	5 枚
チョッキ 0.30	33	ハーフコート 0.30	33
ズボン 0.70	14	事務服 0.60	17
スカート 0.60	17	毛布(S) 3.00	3
オーバー 2.00	5	毛布コート 1.50	7
スプリング 1.50	7	毛皮 3.00	3
レインコート 1.00	10	皮コート 1.00	10
ドレス 0.60	17	カーテン 1.50	7
セーター 0.40	25	タイバック 0.03	333
スポーツシャツ 0.30	33	ベットカバー 2.00	5
ブラウス 0.25	40	椅子カバー 0.80	13
ポレロ 0.30	33	テーブルクロス 0.60	17
ケープ 0.30	33	マフラー 0.10	100
ガウン 0.50	20	ネクタイ 0.05	200
着物 0.50	20	手袋 0.15	67
帯 1.00	10	メリヤス上下 0.80	13

17 基礎参考図



★基礎は地盤によって異なりますので参考にして下さい。

機種	A	B	C	D	E	F	G
DO100	1150	1210	550	150	150	150	1010

## 18 クーラー接続要領(オプション仕様)

本機には3つのタイプのクーラーが接続できます。

- 1) 内蔵型仕様タイプのクーラー …… このクーラーを使用する場合は、チラー水又は井戸水が必要です。  
(簡易型) (水道水又はクーリングタワーでの使用はできません。)
- 2) 別置型仕様タイプのクーラー …… このクーラーを使用する場合は、チラー水又は井戸水が必要です。(水道水又はクーリングタワーでの使用はできません。)
- 3) 冷凍機仕様タイプのクーラー …… このクーラーは溶剤を冷凍機にて直接冷却するタイプです。

### 18-1 内蔵型仕様タイプのクーラー

#### 1) 主な仕様

型式	ocd-22	冷却水水量	20 L/min 以上
最大熱交換量	21,000 kJ/h	冷却水温度	設定温度 -10°C 以下
冷却水入口径	20A (3/4B)	(参考)	
冷却水出口径	20A (3/4B)	チラー容量	1.5 kw 以上
冷却水圧力	0.2 MPa 以下	本体寸法	125x125x725L mm

- 2) 取り付け要領 …… 2-3項を参照してください
- 3) 操作手順 …… 本機では、自動温度調整は出来ません。  
手動調整になります。

#### 注意事項

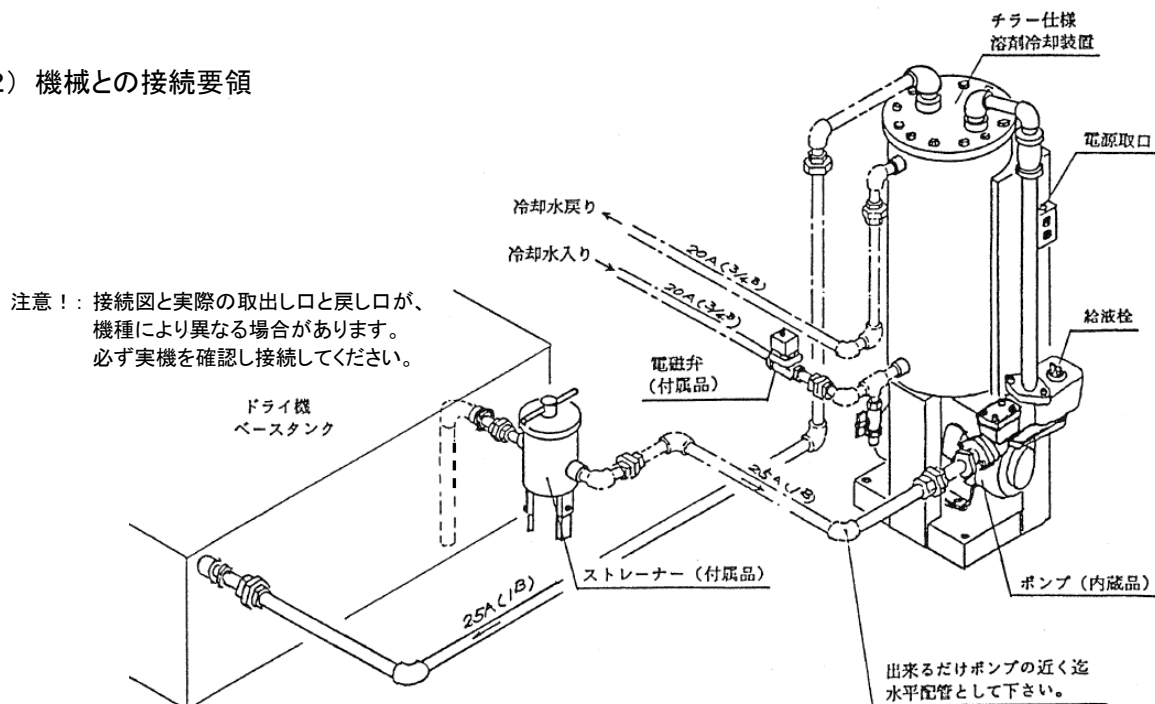
- 1 冷却水は設定温度-10°C以下の水を供給してください。
- 2 クーラーの冷却水出口側にはバルブを絶対に取り付けないでください。  
**危険!**：蒸気等による溶剤加熱は絶対に行わないようにして下さい。

### 18-2 チラー仕様タイプ

#### 1) 主な仕様

型式	dc-7	冷却水圧力	0.2 MPa 以下
適用機種	10キロ機	冷却水水量	30 L/min 以上
最大熱交換量	32,340 kJ/h	冷却水温度	設定温度 -10°C 以下
溶剤入口径	25A (1B)	(参考)	
溶剤出口径	25A (1B)	必要チラー容量	1.5 kw 以上
溶剤循環量	45 L/min	ポンプ(標準装備)	カスケード (0.4 kw)
冷却水入口径	20A (3/4B)	電源	AC200V 3相 2.8A
冷却水出口径	20A (3/4B)	機械寸法	260幅x355奥行x885高さ mm

## 2) 機械との接続要領



## 3) 施工時の注意事項

- a) 配管は全て鉄管にて行って下さい。
- b) 雨又は水のかかる所へは設置しないで下さい。
- c) 高温になる部屋、直射日光の当たる所、火気の近くには設置しないで下さい。
- d) 転倒のおそれがある場合は、必ずアンカーにて固定して下さい。
- e) ポンプの元電源には必ず0.4kw用モーターブレーカーを取り付けて下さい。  
参考：三菱電機製品モーター保護用ノーヒューズ遮断器(MB30-CS型)
- f) 冷却水の圧力は必ず0.2MPa 以下で供給して下さい。
- g) 冷却水の温度は設定温度より10℃以上低い水温の水を供給して下さい。
- h) 冷却水の制御は必ず入口側にて行って下さい。また**出口側には絶対にバルブを取り付けないで下さい。**

### ※FLタイプは機械側での温度制御電磁弁を制御出来ません。

- 注1) 冷却水の循環が止まっても、冷却水循環ポンプに負荷がかからないように、バイパス配管を取り付ける等の保護処置を必ず行って下さい。
- i) 凍結の恐れがある場合は、冷却水を抜き取れるように水抜きバルブを必ず取り付けて下さい。

## 4) 運転の方法

- a) ストレーナーの蓋が閉まっているか確認して下さい。
- b) ポンプ内の溶剤が抜けている場合は、ジョウゴより呼び液をいれて下さい。
- c) ポンプの元電源をいれて下さい。  
注1) 1分程たっても液が循環していないようであれば、再度呼び液をポンプにいれて下さい。空運転を行いますとポンプのメカニカルシールが焼損します。
- d) 冷却水回路の運転を行って下さい。
- e) 運転を終了する場合は、ポンプの元電源及び冷却水回路を止めて下さい。  
注1) 溶剤温度をあまり低くすると、溶剤配管経路に汗をかき、溶剤中に水分が混入することがありますので注意して下さい。 **目安温度：27～30℃**  
※ 周囲環境により結露の発生温度は変化します。結露が発生しているようであれば、設定温度を見直して下さい。  
注2) ストレーナーの掃除は小まめに行ってください。ストレーナーが詰まると、溶剤が循環なくなり、ポンプに負担がかかり、最悪はモーターが焼損する可能性があります。

## 18-3 冷凍機仕様タイプ

### 1) 主な仕様

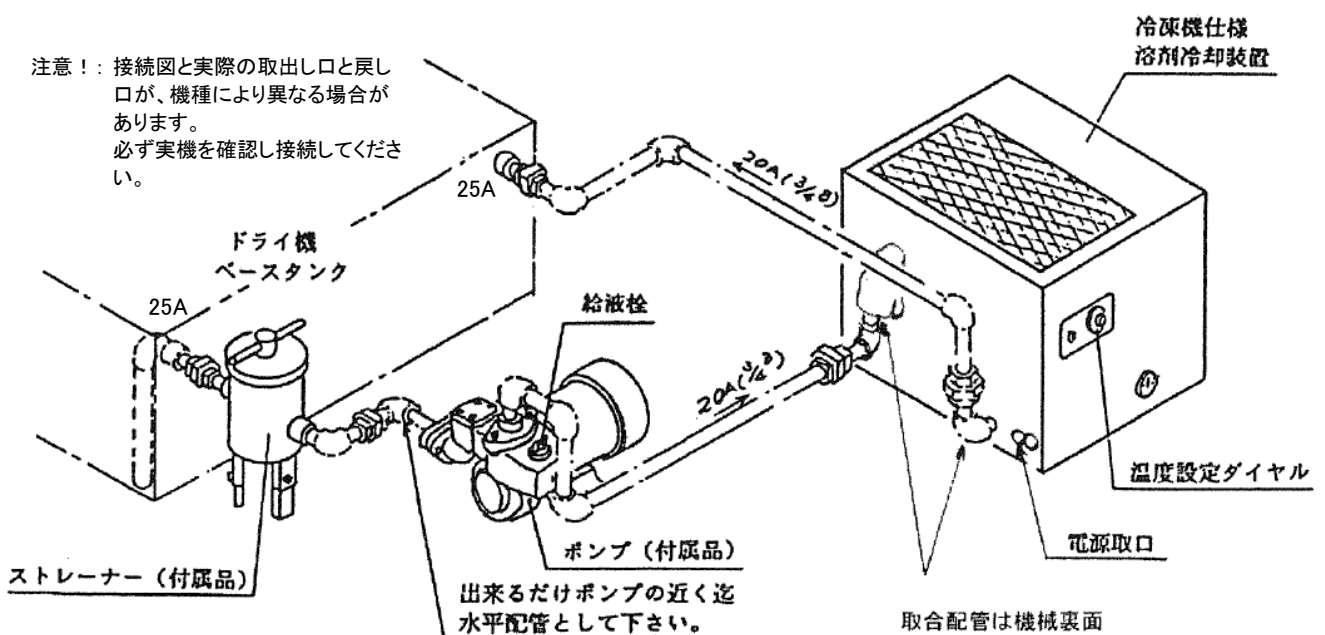
(冷却機)

型式	RKS750FT
適用機種	10キ口機
電源	AC200V 3相 50Hz/60Hz
消費電力	0.67/0.82 kw
冷却能力	1.82/2.05 kw (6,590/7,430 kJ/h)
溶剤入口径	20A (3/4B)
溶剤出口径	20A (3/4B)
溶剤循環量	20~27/20~30 L/min
温度設定範囲	20~30 °C
周囲温度範囲	5~40 °C
使用冷媒	R407C
外形寸法	420幅×562奥行×428高さ mm
重量	45 kg

(ポンプ)

型式	カスケードポンプ (WPT-401)
電源	AC200V 3相 0.4 kw
能力	34/36 L/min (圧力0.12 MPa)
配管接続口径	32A (1 1/4B)

### 2) 機械との接続要領





### 3) 施工時の注意事項

- a) 配管は全て鉄管にて行って下さい。
- b) 雨又は水のかかる所へは設置しないで下さい。
- c) 高温になる部屋、直射日光の当たる所、火気の近くには設置しないで下さい。
- d) 冷凍機の吸気口及び排風口をふさがないで下さい。又、吸気口及び排風口の近くに物を置き（1m以上の空間を取る）、通風の障害となるようなこともしないで下さい。
- e) ポンプの元電源には必ず0.4kw用モーターブレーカーを取り付けて下さい。  
参考: 三菱電機製品モーター保護用ノーヒューズ遮断器(MB30-CS型)
- f) 冷凍機の元電源には15Aのブレーカーを取り付けて下さい。

### 4) 運転の方法

- a) ストレーナーの蓋が閉まっているか確認して下さい。
- b) ポンプ内の溶剤が抜けている場合は、ジョウゴより呼び液をいれて下さい。
- c) ポンプの元電源をいれて下さい。  
注 1) 1分程たっても液が循環していないようであれば、再度呼び液をポンプにいれて下さい。空運転を行いますとポンプのメカニカルシールが焼損します。
- d) 冷凍機の元電源をいれて下さい。
- e) 冷凍機についている温度設定を確認し、変更する場合は設定を変えて下さい。
- f) 運転を終了する場合は、冷凍機の元電源、ポンプの元電源の順に切って下さい。

注 1) 運転中に冷凍機が自動的に『ON』『OFF』を繰り返すことがありますが、これは故障ではありません。設定温度に達すると自動制御が働くためになる現象です。

- 2) 溶剤が設定温度に達していないのに冷凍機が停止する場合は、冷凍機の保護装置が作動したと考えられます。

この場合は、冷凍機の空気吸い込み口のフィルターの掃除及び、その奥にあります凝縮機のフィンの掃除を行って下さい。

- 3) 溶剤の設定温度をあまり低くすると、溶剤配管経路に汗をかき、溶剤中に水分が混入することがありますので注意して下さい。

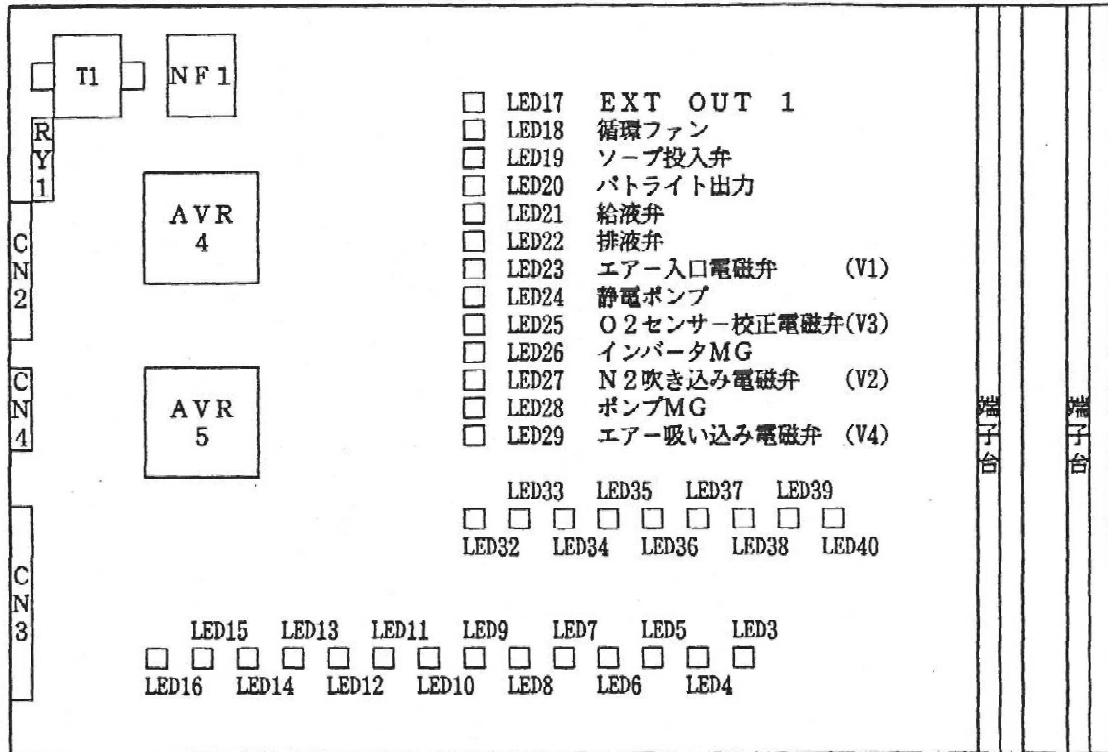
設定目安温度: 27～30℃

※ 周囲環境により結露の発生温度は変化します。結露が発生しているようであれば、設定温度を見直してください。

- 4) ストレーナーの掃除は小まめに行ってください。ストレーナーが詰まると、溶剤が循環なくなり、ポンプに負担がかかり、最悪はモーターが焼損する可能性があります。

# <付属書>

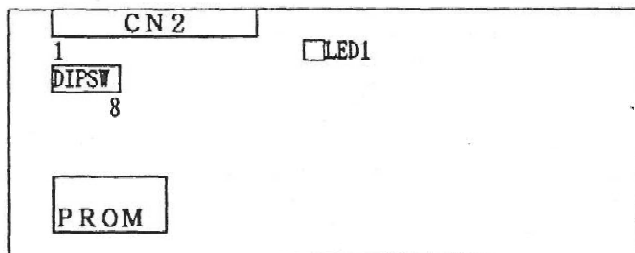
LED配置図



- LED3 ポンプサーマル
- LED4 給液リミットSW
- LED5 ドアSW
- LED6 振動SW
- LED7 排液リミットSW
- LED8 EXT IN 1
- LED9 静電センサー
- LED10 EXT IN 2
- LED11 インバータ異常
- LED12 速度到達
- LED13 回転停止
- LED14 O2センサー 緑
- LED15 ソープ切信号
- LED16 O2センサー 赤

- LED32 ドラム逆転
- LED33 ドラム正転
- LED34 回転1
- LED35 回転2
- LED36 回転3
- LED37 O2センサー校正
- LED38 ドアロック
- LED39 O2室内計測切替電磁弁
- LED40 ブザー

- DIPSW (ON)
- 1 = 10K
  - 2 = 16K
  - 3 = 22K
  - 4 =
  - 5 = 給液電磁弁仕様
  - 6 = 排液電磁弁仕様
  - 7 =
  - 8 = N2仕様



入力端子割付表

振動スイッチ	LED6	0	20		
振動・ドアCOM		1	21		
ドアスイッチ	LED5	2	22		
給液リミットスイッチ	LED4	3	23		
給液・ポンプCOM		4	24	LED9	静電センサー
防爆・ポンプサーマル	LED3	5	25		静電センサー-15V
排液リミットスイッチ	LED7	6	26		静電センサー-COM
排液COM		7	27		静電センサーシールド
EXT IN1	LED8	8	28		ドアロック (DC+15V)
EXT IN2	LED10	9	29		
EXT IN COM		10	30		
		11	31		
		12	32		液温度センサー
		13	33		液温度センサー-COM
		14	34		液温度センサーシールド
		15	35		ブザー (+)
		16	36	LED40	ブザー (-)
		17	37		
		18	38	LED15	ソープ切信号
		19	39		
			40		ソープ切信号COM

出力端子割付表

インバータ異常 (FLB)	LED11	100120	LED36	回転3 (SS3)
速度到達 (OUT2)	LED12	101121	LED38	ドアロック
回転停止 (OUT1)	LED13	102122	LED34	回転1 (SS1)
GND (FLC)		103123	LED33	ドラム正転 (F)
GND (CC)		104124	LED32	ドラム逆転 (R)
インバータシールド		105125	LED39	
回転2 (SS2)	LED35	106126		
ポンプマグネット	LED28	107127	LED29	
インバータ・ポンプマグネットCOM		108128		
インバータマグネット	LED26	109129	LED27	
静電ポンプ	LED24	110130	LED25	
静電ポンプ・排液弁COM		111131		
排液弁	LED22	112132	LED23	
給液弁	LED21	113133		
給液・ソープCOM		114134	LED17	EXT OUT COM
ソープ投入弁	LED19	115135	LED20	EXT OUT 1
		116136		バトライト (運転時ON100V出力)
		117137		バトライトCOM
AC100V (T)		118138		
AC100V (R)		119139		
アース (E)		140	LED18	

## オートグリス取扱方法

オートグリスは機械の附属品として同梱されています。下記『取付方法』に従って取付けてください。

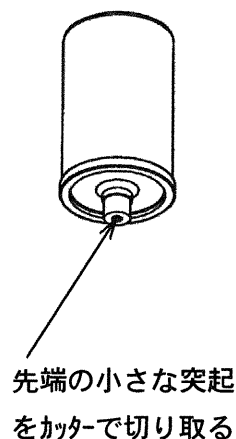
### 仕様

名 称	sima lube オートグリス (自動給油器)					
駆動方法	H ガス圧力 (乾電池式)					
取付方向	自由 (オイルの場合は逆仕弁キャップ使用)					
内 容 量	1 2 5 ml					
作動圧力	最大 3 kg/cm <sup>2</sup> (3 bar)					
吐出期間	設定範囲 無段階 1～12 ※使用温度や潤滑剤などにより設定数値と使用月数とが異なる場合があります。					
吐 出 量	設定値	1	3	6	9	12
	ml / 日	2.4	0.92	0.48	0.32	0.25
	期間 (日)	50	130	250	370	490
使用温度	- 20℃～+ 55℃					
使用期間	潤滑剤充填後 2 年以内					
保管方法	室温冷暗所で保管してください。					
重 量	約 190 g (潤滑剤充填後) 約 70 g (空容器)					
外形寸法	φ 52mm H100mm (全高 114mm) おねじ R1/4 × 14mm					
使用注意	直接熱をさけること。					
水中使用	水中での使用可 (取付時の水混入に注意)					

上記吐出量は、グリス 2 号 0℃のデータです オイルの場合吐出量は多少多くなり期間は短くなります。

### 取付方法

- (1) 封印キャップ先端の小さな突起をカッターで切り取る。  
封印キャップは外さないで下さい。
- (2) 市販の 3 mm の六角レンチを使用して、上部のガスジェネレーターの希望の設定数値 [6] のところに、△印をセットする。 ⇒スイッチ ON (すぐには出て来ません。)  
※目盛りの数値は使用ヶ月ではありません  
※設定値調整穴は変形しやすいので、良質な六角レンチを深く差し込み慎重に行う事。
- (3) 油性ペンなどで、本器の側面ラベルに使用開始日を記入する。(使用開始日： )
- (4) 本器を給脂箇所到手でねじ込む。  
※注記を必ずお読みください。
- (5) 本器が吐出期間を終了したら、新しいオートグリスと交換をしてください。



※注記

- (1) オートグリスを確実に作動させるためには、潤滑経路がきれいになっていることが重要です。
- (2) 潤滑経路が詰まっている状態で取付けた場合、ガス圧が異常に高くなり約 7kg/cm<sup>2</sup> を越えると、安全対策として本体底部又は、ガスジェネレータ部上部が破壊するようになっており、順調に給脂が行われていて途中で潤滑経路が詰まった場合は本体底部が破壊するようになっていきますのでご注意ください。
- (3) 本器は使用中に吐出期間の変更や停止が自由に出来ます。
- (4) ガスジェネレーターを ON (設定値にする) にしてからグリスの吐出が開始するまでに時間がかかります。グリスの吐出を確認した後取付けてください。

(グリースが出ない場合は、ガスジェネレーターの締め付け不良によるガス漏れ、ガスジェネレータの不良、吐出部の封印キャップの取り忘れ〔オイルは封印キャップ先端突起部の切り忘れ〕などが考えられます。)

吐出量の決定 (全自動水洗機 石油系ドライ機 の場合)

設定スイッチを〔6〕に設定してください。〔6以上〕に設定しますと軸受のオイルシールの寿命が短くなりますので設定しないでください。

設定値と温度、使用期間 (早見表)

設定値	使用期間 (日数)					
	- 20℃	- 10℃	0℃	10℃	20℃	40℃
0	稼動停止状態					
1	70	60	50	40	30	20
2	110	100	90	75	60	45
3	150	140	130	110	90	70
4	190	180	170	145	120	95
5	230	220	210	180	150	120
6	270	260	250	215	180	145
7	310	300	290	250	210	170
8	350	340	330	285	240	195
9	390	380	370	320	270	220
10	440	420	410	355	300	245
11	490	460	450	390	330	270
12	550	510	490	425	365	300

上記使用期間は、グリス1号を背圧0で使用した場合です

グリスの0号又はオイルを使用した場合、使用期間は上記早見表より多少短くなります。

## 洗濯事業に関連する労働安全衛生法・規則について

本機は労働安全衛生法・規則に該当する機械です。  
従って、下記の事項が使用者に義務づけられています。  
必ず遵守して頂きますようお願いいたします。

遠心機械に関する確認事項内容（対象機種：ドライクリーニング機、水洗機）

1. 内容物を取り出す場合の運転停止（労働安全衛生規則第百三十九条）  
機械の運転を停止してから内容物を取り出すこと。
2. 最高使用回転数をこえる使用の禁止（労働安全衛生規則第百四十条）  
機械の最高使用回転数をこえて使用しないこと。
3. 定期自主検査（労働安全衛生規則第百四十一条）  
一年以内ごとに一回、以下の自主検査を行ない、三年間記録を保存すること。

### 1) 点検すべき事項

- (1) 回転体の異常の有無
- (2) 主軸の軸受部の異常の有無
- (3) ブレーキの異常の有無
- (4) 外わくの異常の有無
- (5) 前各号に掲げる部分のボルトのゆるみの有無

### 2) 記録すべき事項

- (1) 検査年月日
- (2) 検査方法
- (3) 検査箇所
- (4) 検査の結果
- (5) 検査を実施した者の氏名
- (6) 検査の結果に基づいて補修等の措置を講じたときは、その内容

### 3) 補修等

点検を行ない、異常を認めた場合、直ちに補修その他の必要な措置を講じること。

## 危険物等の取扱い等に関する取り扱い（対象機種： ドライクリーニング機）

1. 危険物（労働安全衛生施行令 別表第一）を製造する場合等の措置（労働安全衛生規則 第二百五十六条）
  - 1) 爆発性の物（過酢酸等が該当）については、みだりに、火気その他点火源となるおそれがあるものに接近させ、加熱し、摩擦し、又は衝撃を与えないこと。
  - 2) 発火性の物（該当なし）については、それぞれの種類に応じ、みだりに、火気その他点火源となるおそれのあるものに接近させ、酸化をうながす物若しくは水に接触させ、加熱し、又は衝撃を与えないこと。
  - 3) 酸化性の物（次亜塩素酸ソーダが該当）については、みだりに、その分解がうながされるおそれのある物に接触させ、加熱し、摩擦し、又は衝撃を与えないこと。
  - 4) 引火性の物（クリーニング溶剤のうち引火点65℃未満のものが該当）については、みだりに、火気その他点火源となるおそれのあるものに接近させ、若しくは注ぎ、蒸発させ、又は加熱しないこと。
  - 5) 危険物を製造し、又は取り扱う設備のある場所を常に整理整頓し、及びその場所に、みだりに、可燃性の物又は酸化性の物を置かないこと。
2. 作業指揮者（労働安全衛生規則第二百五十七条）
  - 1) 危険物を製造し、又は取り扱う設備及び当該設備の附属設備について、随時点検し、異常を認めるときは、直ちに必要な措置をとること。
  - 2) 危険物を製造し、又は取り扱う設備及び当該設備の附属設備がある場所における温度、湿度、遮（しゃ）光及び換気の状態等について随時点検し、異常を認めるときは、直ちに必要な措置をとること。
  - 3) 前各号に掲げるもののほか、危険物の取扱いの状況について、随時点検し、異常を認めるときは、直ちに、必要な措置をとること。
  - 4) 前各号の規定によりとった措置について、記録しておくこと。

## 遠心機械の定期自主検査記録表

(労働安全衛生規則 第四百四十一条の遠心機械定期自主検査の規定による)

会社名 (工場名)		検査実施日	年 月 日
		記録保管期日	年 月 日迄保管する

検査機種名	
型 式	
製造番号	

検査記録は3年間保管する義務があります

確認者		検査 担当者	
-----	--	-----------	--

No.	点検・検査事項	点検箇所・点検内容	検査結果 (○・△・×)	処置内容 (△・×時の処理内容)
1	回転体異常の有無	運転時に異常な音・振動はないか		
		元電源を落とし機械を停止し、ドラムを手で上下させ、ドラムのガタツキがないか		
2	主軸軸受部異常の有無	運転時に異常な音・振動はないか		
3	外枠異常の有無	運転中、異常な振動はないか(目視)		
4	前各号に掲げる部分のボルトの緩み有無 (必ず元電源を切り、機械が停止してから点検の事)	軸受ケース固定ボルト及び、主軸固定ナットの緩みはないか		
		モーター取付部のボルト及び、ナットの緩みはないか		
		その他固定ボルト及び、ナットの緩みはないか		

注1) ○: 良好に付修理不要    △: 都度判断    ×: 不良に付補修

注2) 毎年1年以内に実施のこと

備考欄 (上記枠に記載できない事項を記載)

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

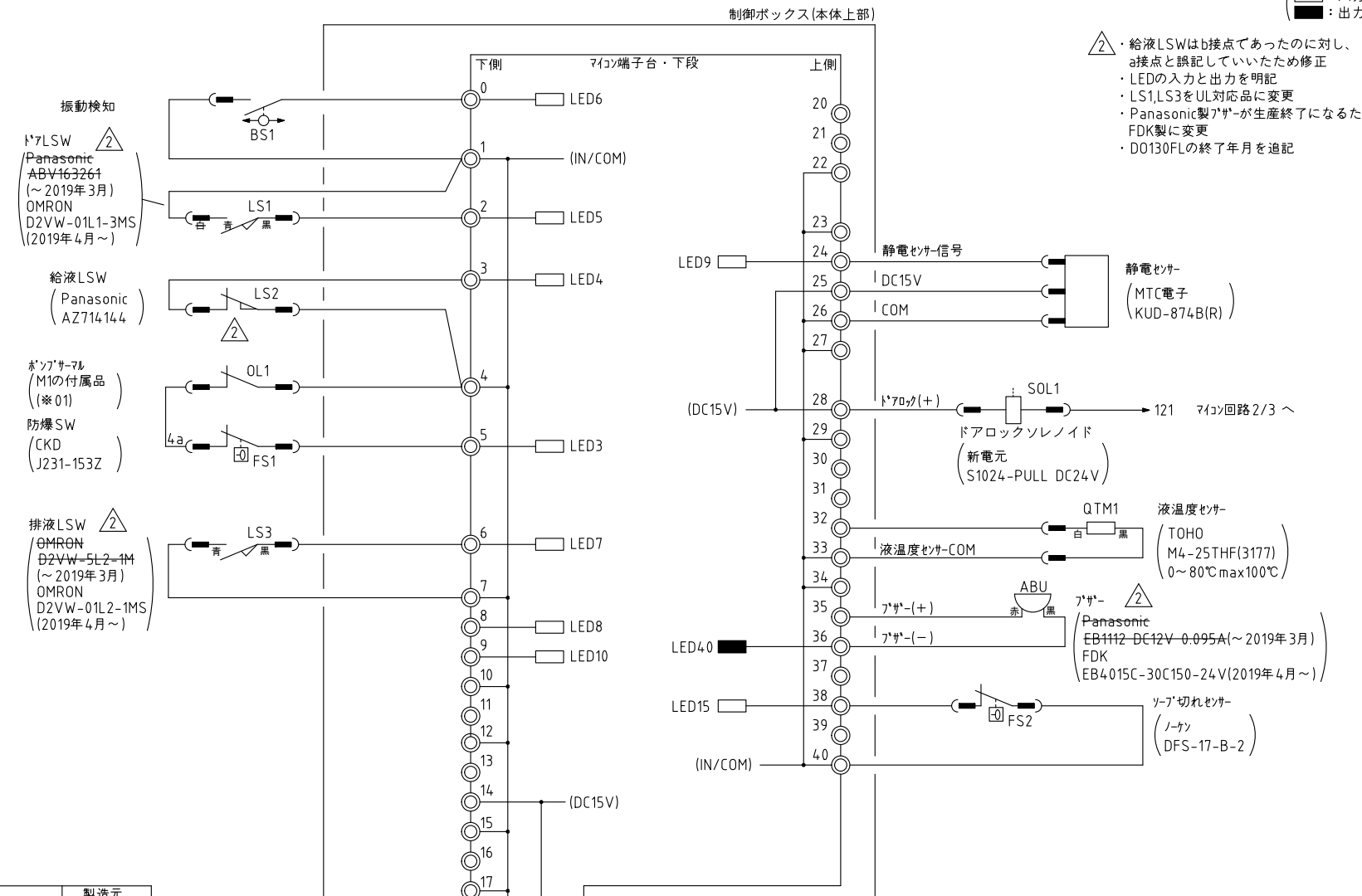
-----

-----



配布先	図
寸切	
資切	
シャ	
タレ	
バイ	
ブレ	
レーザ	
曲	
スピ	
ガス切	
ロール	
機械	
製缶	
特機	
一機	
二機	
三機	
電気	
資材	
木型	
外注	
メッキ	
控	
合計	

△2 LEDxxについて  
 (□:入力)  
 (■:出力)



- △2・給液LSWはb接点であったのに対し、a接点と誤記していたため修正
- LEDの入力と出力を明記
- LS1,LS3をUL対応品に変更
- Panasonic製ガス-が生産終了になるため、FDK製に変更
- DO130FLの終了年月を追記

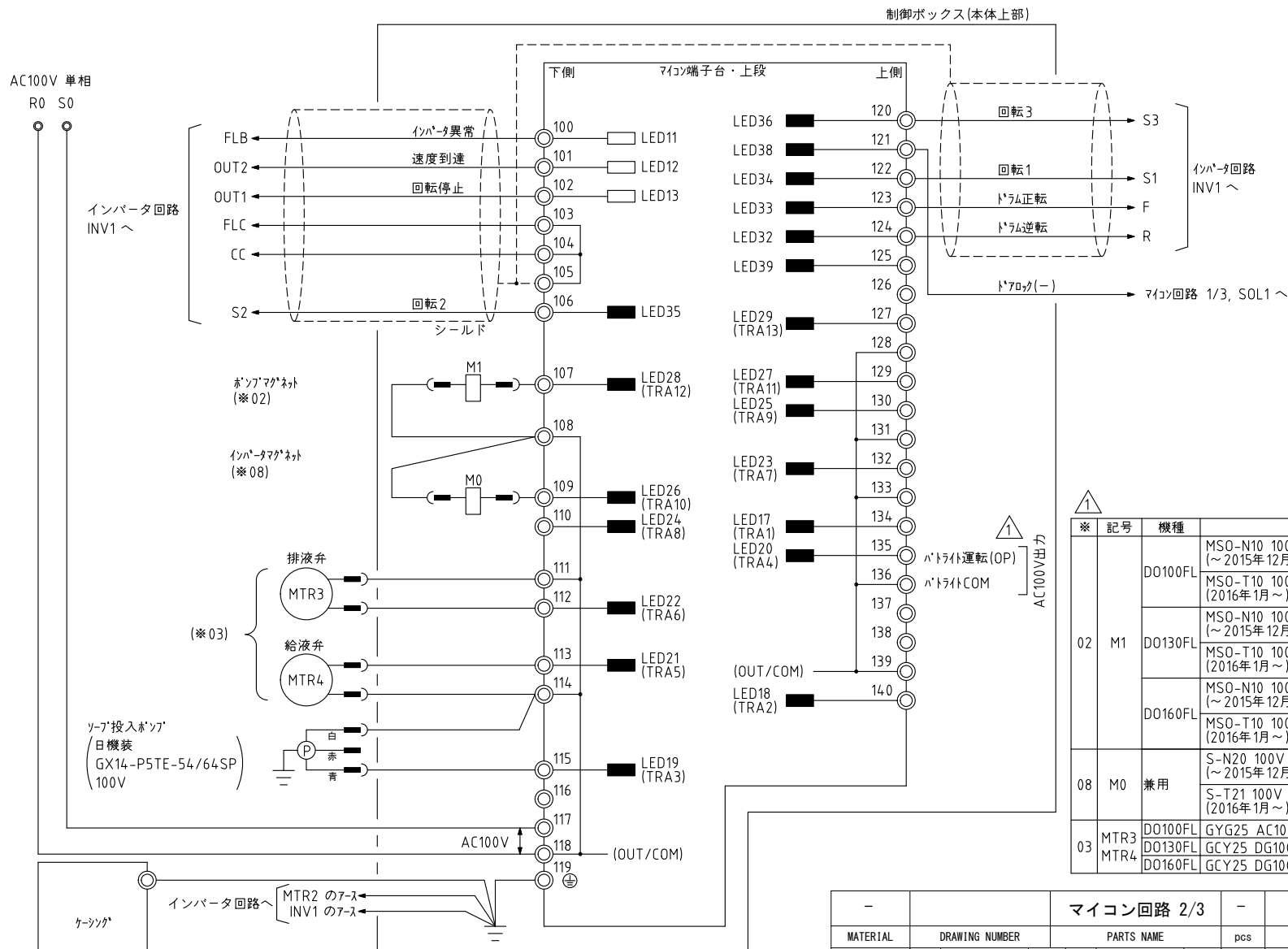
△1

※	記号	機種	型式・概要	製造元
01	OL1	DO100FL	TH-N12 100V 2.6A(~2015年12月) TH-T18 100V 2.6A(2016年1月~)	MITSUBISHI
		DO130FL	TH-N12 100V 5A(~2015年12月) TH-T18 100V 5A(2016年1月~)	
			DO160FL	

MATERIAL	DRAWING NUMBER	PARTS NAME	pcs	ABSTRACT	WEIGHT	LOT NO.
DESIGN DRAWING	10	5	trig.	DRAWING NUMBER		
	9	4	SCALE	製造開始日		
	8	3	FREE	△ DO130FL '03-8-1(~'13-9)		
	7	2		DO160FL '03-8-1		
	6	1				
MACHINE		PART	OLD DRAWING NUMBER			
全自動ドライ機		操作部	-			

配布先	図
寸切	
資切	
シャ	
タレ	
バイ	
ブレ	
レーザ	
曲	
スピ	
ガス切	
ロール	
機械	
製缶	
特機	
一機	
二機	
三機	
電気	
資材	
木型	
外注	
メッキ	
控	
合計	

△ LEDxxのについて  
 (□ : 入力)  
 (■ : 出力)

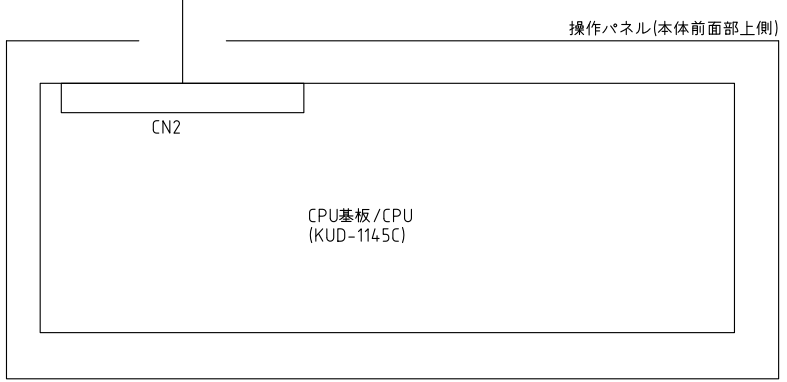
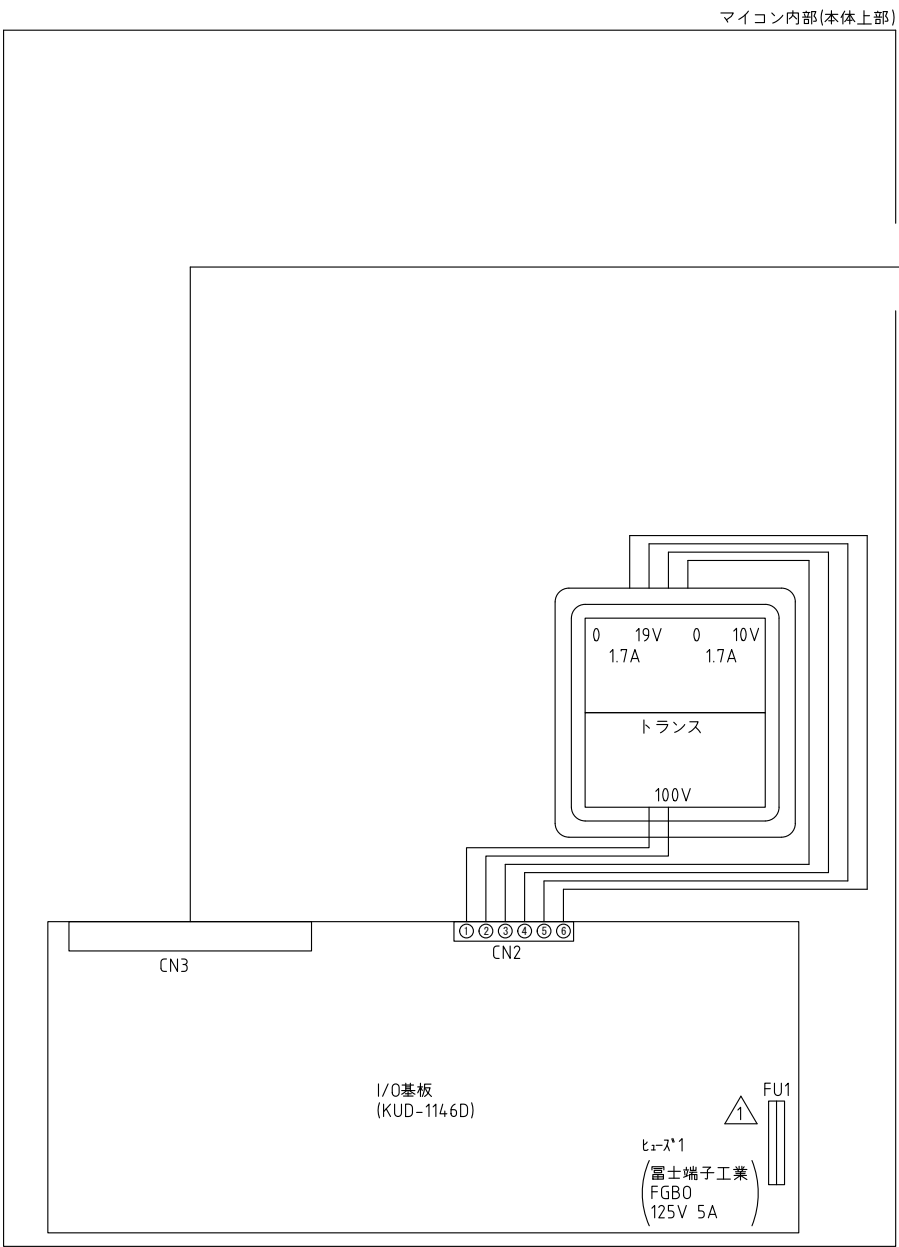


(※09) : TRAx(マイコン内部トラフィック)  
 (RENASAS BCR5AM-12LA)  
 (出力側 : 600V 5A)

※	記号	機種	型式・概要	製造元
02	M1	D0100FL	MSO-N10 100V 11A 補助接点1a サ-7L値2.6A (~2015年12月)	MITSUBISHI
			MSO-T10 100V 11A 補助接点1a サ-7L値2.6A (2016年1月~)	
		D0130FL	MSO-N10 100V 11A 補助接点1a サ-7L値5A (~2015年12月)	
			MSO-T10 100V 11A 補助接点1a サ-7L値5A (2016年1月~)	
08	M0	兼用	S-N20 100V 18A 補助接点1a1b (~2015年12月)	MITSUBISHI
			S-T21 100V 20A 補助接点2a2b (2016年1月~)	
03	MTR3 MTR4	D0100FL	GYG25 AC100V	DOK
		D0130FL	GCY25 DG100P-4.37 AC100V	
		D0160FL	GCY25 DG100P-4.37 AC100V	

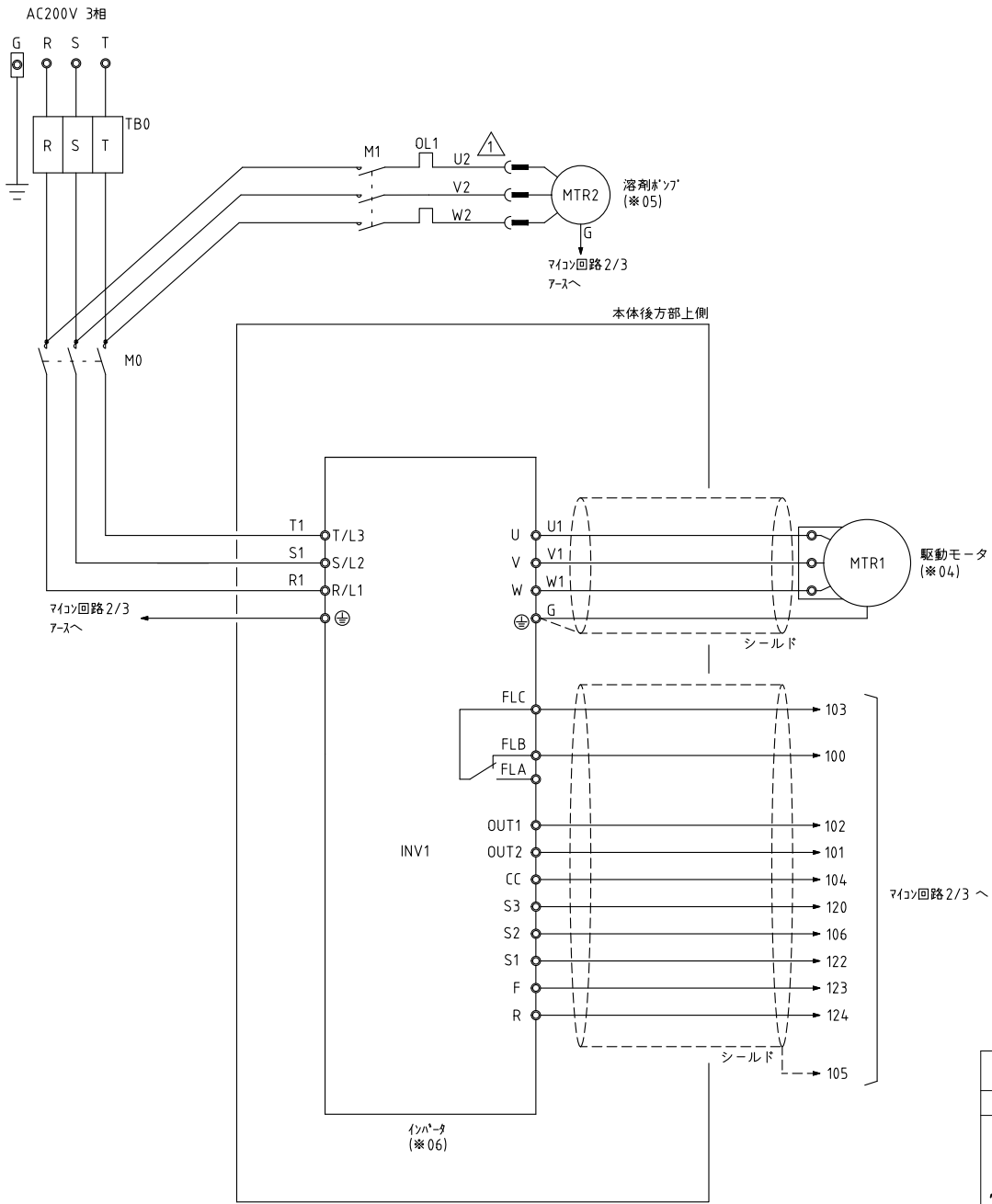
MATERIAL	DRAWING NUMBER	PARTS NAME	pcs	ABSTRACT	WEIGHT	LOT NO.
DESIGN DRAWING	10 9 8 7 6	5 4 3 2 1	trig. SCALE FREE	DRAWING NUMBER 製造開始日 △ D0130FL '03-8-1(-'13-9) D0160FL '03-8-1		
DATE	'15.7.24			<b>DHKZ160 (2/5)</b>		
MACHINE	全自動ドライ機	PART	操作部	D0100FL D0130FL D0160FL	OLD DRAWING NUMBER	

配布先	図
寸切	
資切	
シャ	
タレ	
バイ	
ブレ	
レーザ	
曲	
スピ	
ガス切	
ロール	
機械	
製缶	
特機	
一機	
二機	
三機	
○	
電気	
資材	
木型	
外注	
メッキ	
控	
合計	
○	



-		マイコン回路 3/3		-		-		-		-	
MATERIAL	DRAWING NUMBER	PARTS NAME		pcs	ABSTRACT		WEIGHT	LOT NO.			
DESIGN DRAWING 笹山	10	5		trig.	DRAWING NUMBER		製造開始日		D0100FL '03-8-1		
	9	4		SCALE	△		D0130FL '03-8-1('13-9)		D0160FL '03-8-1		
	8	3			FREE		D0160FL '03-8-1				
	7	2	D0130FLの終了年月を追記		2019/05/23						
	6	1	E-1の明記		2015/10/02						
	'15.7.24										
MACHINE 全自動ドライ機				PART 操作部		D0100FL D0130FL D0160FL		OLD DRAWING NUMBER -			

配布先	図
寸切	
資切	
シヤ	
タレ	
バイ	
ブレ	
レーザ	
曲	
スピ	
ガス切	
ロール	
機械	
製缶	
特機	
一機	
二機	
三機	
電気	
資材	
木型	
外注	
メッキ	
控	
合計	

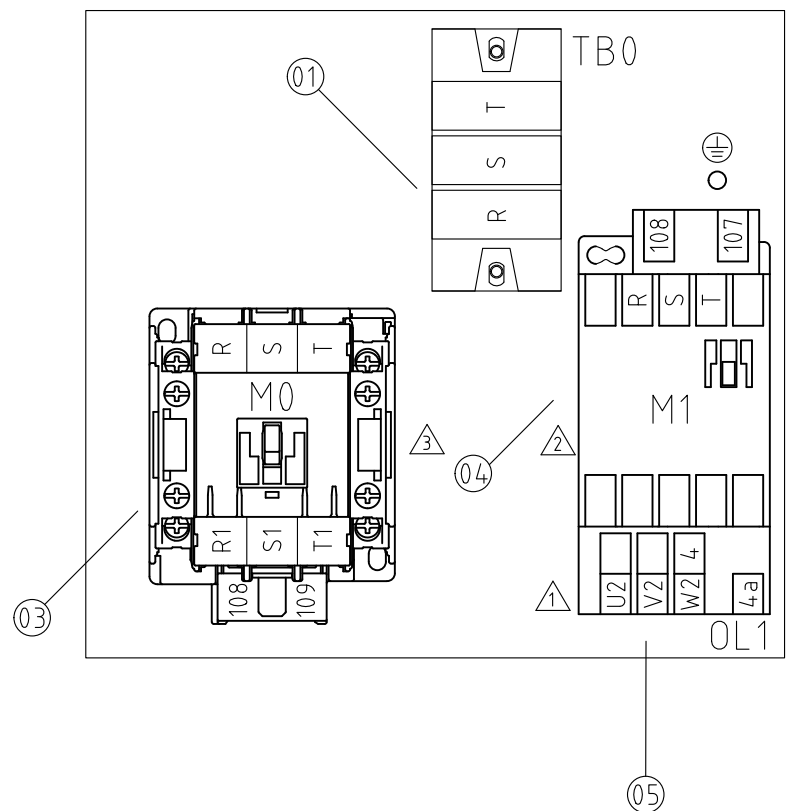


※	記号	機種	型式・概要	製造元
04	MTR1	DO100FL	IK-FBK8-6P-1.5KW-200V-60Hz-7.2A	TOSHIBA
		DO130FL	IKH3-FBKA21E-4P-2.2kW 200V9.4A $\Delta$	
		DO160FL	IK-FBK8-6P-2.2KW-200V-60Hz-9.6A IKH3-FBKA21E-4P-3.7KW $\Delta$	
05	MTR2	DO100FL	CS-325-CN0.4T 200V(50Hz)	川本製作所
			CS-326-CN0.4T 200V(60Hz)	
		DO130FL	aFW405-200V(50Hz)	富士
			AFW-415L 200V(50Hz) $\Delta$	
		DO160FL	aFW405-200V(60Hz)	富士
			AFW-416L 200V(60Hz) $\Delta$	
06	INV1	DO100FL	VFAS1-2022PL 2.2kw 11A(-2021年3月生産)	TOSHIBA
		DO130FL	VFAS3J-2022PL 2.2kw(2021年4月生産-) $\Delta$	
		DO160FL	VFAS1-2022PL 2.2kw 11A	
			VFAS1-2037PL 3.7kw(-2021年3月生産) $\Delta$ VFAS3J-2037PL 3.7kw(2021年4月生産-) $\Delta$	

MATERIAL		DRAWING NUMBER		PARTS NAME		pcs	ABSTRACT		WEIGHT	LOT NO.
DESIGN	10			5		trig.	DRAWING NUMBER	製造開始日	DO100FL '03-8-1	
DRAWING	9			4		SCALE			$\Delta$ DO130FL '03-8-1(-13-9)	
	8			3	INV1はVFASから VFAS3Jに交換	FREE	DVKZ160 (4/5)			
	7			2	旧品の廃棄の取扱い DO130FLの終了年月を追記					
	6			1	電子番号変更 [02-12 → 12-W2]					
MACHINE	全自動ドライ機			PART	操作部		DO100FL DO130FL	OLD DRAWING NUMBER		
							DO160FL			

制御ボックス(本体上部)

配布先	図
寸切	
資切	
シャ	
タレ	
バイ	
ブレ	
レーザ	
曲	
スピ	
ガス切	
ロール	
機械	
製缶	
特機	
一機	
二機	
三機	
電気	
資材	
木型	
外注	
メッキ	
控	
合計	



No.	記号	型式	製造元
01	TB0	TK301 3P	壬生電機製作所
02	マイコン	DO1-FL	MTC電子
03	M0	S-T21 AC100V	MITSUBISHI
04	M1	MSO-T10 AC100V	MITSUBISHI
05	OL1	TH-T18 AC100V(※07)	MITSUBISHI

(※07): マイコン回路1/3の(※01)参照

-		制御ボックス配置図		-	
MATERIAL	DRAWING NUMBER	PARTS NAME	pcs	ABSTRACT	WEIGHT LOT NO.
DESIGN DRAWING	10	5	trig.	DRAWING NUMBER	製造開始日 D0100FL '03-8-1
笹山	9	4	SCALE	FREE	D0130FL '03-8-1(-'13-9) D0160FL '03-8-1
	8	3			
	7	2			
	6	1			
MACHINE	全自動ドライ機		PART	操作部	
			D0100FL D0130FL		OLD DRAWING NUMBER
			D0160FL		-

